

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

今年の内外経済を展望する

戦後70年 想う

戦後70年 広島に花を 真珠湾にも花を
検証・異次元緩和2年

80周年記念

第66巻5号

27年5月号

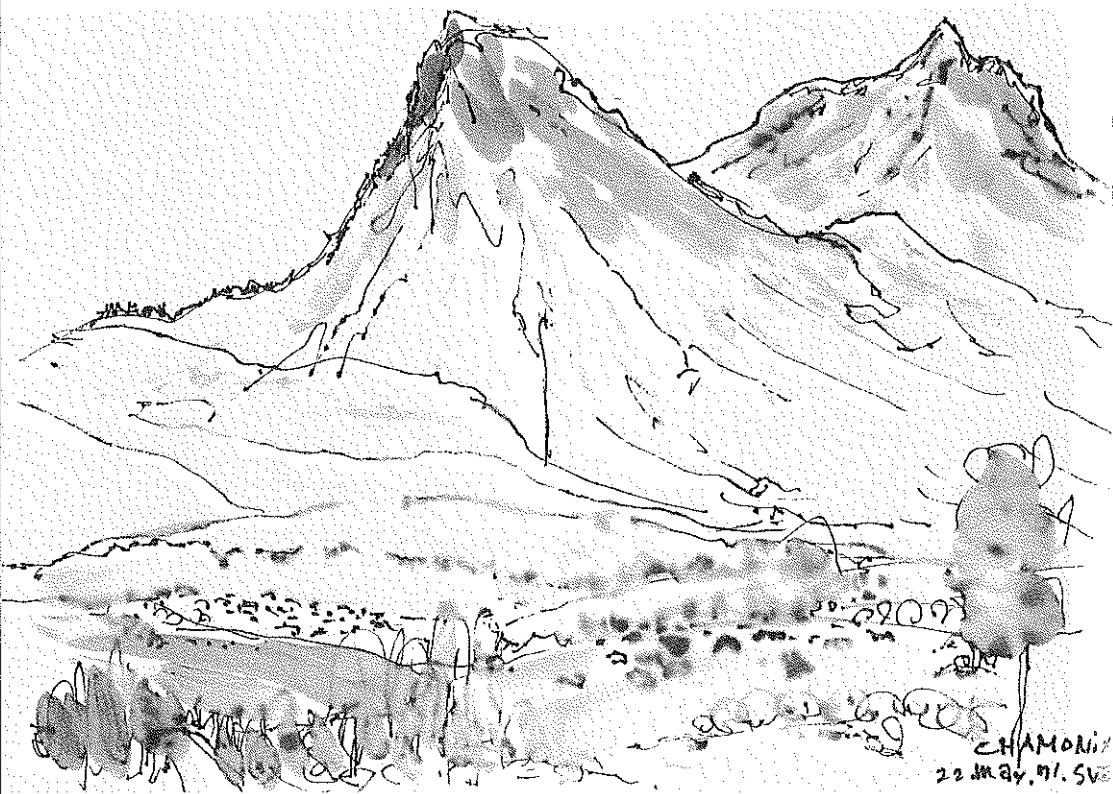
国会図書館永久保存書

五十嵐 敬喜

榎原 英資

山脇 岳志

北坂 真一



モンブランとシャモニーの街

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人

昭和経済会の案内

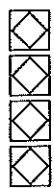
(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經營相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和經濟」の発行



五月号・目次



卷頭言 ······ 佐々木誠吾 ······ (2)

2030年の電源構成
過大な省エネは国民負担 ······ 野村 浩二 ······ (51)

今年の内外経済を展望する
五十嵐敬喜 ······ (18)

賃上げ春闘 ······ 吉川 洋 ······ (57)

戦後70年 想う ······ 榊原 英資 ······ (31)

わが回想記 ······ 堀江 忠男 ······ (62)

ハリケーン in New York ······ ランコ岩本 ······ (67)

戦後70年
広島に花を 真珠湾にも花を
山脇 岳志 ······ (36)

昭経俳壇 ······

後記隨想 ······ 佐々木誠吾 ······ (71)

検証・異次元緩和二年 ······ 北坂 真一 ······ (39)

表紙絵の言葉 ······ 佐々木誠吾 ······ (17)

イノベーションを生むには 中鉢 良治 ······ (45)

特別贊助会員 ······ (18)

卷頭言 佐々木誠吾

疫病による犠牲者が生じたのは痛ましいことでした」と述べられたのである。

私は、陛下の、一貫して平和を求めるゆ

天皇皇后 殉職兵士の追悼の旅

戦争の悲劇と惨状を目の当たりにし、その悲惨さを経験された天皇陛下は、戦争のない平和国家の建設を一貫して求めてこられた。同時に今年は、敗戦後七十年を過ぎた。戦争の歴史を忘れてはならないとして、戦争で犠牲になつたみ霊の慰靈に全国各地を遍歴されてきた。今回、八十一歳の高齢をいとわず、太平洋戦争の激戦地となつた西太平洋に浮かぶパラオに皇后とご一緒に赴かれた。八日午後に開かれて現地での関兵晩餐会で陛下は「パラオの地において、先の戦争で亡くなつたすべての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道を偲びたい」といわれ、さらに「貴国民に空襲や食糧難、

意味であり、不屈の信念であると、そのために果敢に努力していく姿勢を強く打ち出したものでなければならないと思つたのである。今の天皇が戦中戦後、奥日光の湯元に疎開していた時に墨で描いた大きな書がある。なかなか立派な字で、美しい墨の跡である。書かれている字は力強く、純粹に少年の氣概を示して、「平和国家建設」とあつた。戦後七十年を迎える日本は、平和憲法のもと、戦場で一人も人を殺さないでやつてこられた。誘惑に負けず、厳しい忍耐を求められながら、ひたすら経済発展と民生の安定に傾注してこられたのも、世界

に冠たる最高法規の、この平和憲法のおかげである。天皇はそれをよく凝視され、常に平和憲法の精神と存在について熱く述べられている。我々は、この崇高な思いを忘れてはならない。

戦ひに敗れ玉碎の兵士らを弔ふ旅の天皇皇后
打ちよする白波清きバラオ島いまだ兵士の
眠るしかばね
天皇の慰靈の旅の敵味方犠牲となりし兵士
すべてに
敗戦の被害甚大に立ち上がる平和日本を願う天皇
戦ひの惨状を見て南海の島に埋もれるしかばねのあと
塹壕の中より兵士ふらふらと出でて白旗ふりて撃たれり

乙女らの悲しき涙とも思ゆ今ひめゆりの塔にある雨

兵士らの飲まず食わずの洞くつに居れば火炎の容赦なく攻む
苦しみも痛みも口に云わねども欲しがりません勝つまではの句

畑には芋があるのにつるのみで食いつなぐ
日の苦しかりけり

号令をかけられて立つ少年ら皆瘦せほけて
痛ましきなり

農家には田んぼがあつて米があるなのにそ
の米が見えぬ矛盾は

バケツ持ち槍振りかざし米軍の物量作戦の
前に敗れり

空高くB29の飛来して弾も軍機もとどか
ざりけり
編隊を組み悠然と空をゆくB29の銀にき
らめく

雲間より敵グラマンの飛来して機銃掃射す

福井地裁の決定

学童の列

国民の本土決戦に意氣あがり筈、はたきも

武器の一つに

銀翼のB29の上空をめざし竹やりを突く

老人

無残なり戦ひのあとしかばねの山と積まれ

て焼ぶるるあと

戦争を仕掛け導く軍人の上に安閑と胡坐か

きおり

意味不明戦時体制に突き進む今の日本のふ

らつきあやし

緑濃きパラオの島の両陛下亡き兵卒に深く

祈れり

弾丸の雨とあられと飛び散りて小さき島も

火の土地と化す

敗戦の時の墨書に天皇の平和國家建設とあ

り

四月九日

高浜原発の再稼働を認めないと仮処分の決定が福井地裁でなされた。原子力規制委員会が行つた規制基準が「不合理」であり、従つてその基準に従つて承認を得た再稼働通知は間違つていいという見解である。再稼働を含めて、原発の運転を差し止めの仮処分の決定は初めてであり画期的と云うべきかもしれない。原発推進派と、原発推進反対を訴える二つの意見が、日本では真つ二つに分かれている。いずれもそれなりに十分な理由を持っているが、最近の傾向として再生可能なエネルギーの開発で、日本のエネルギー事情は過渡期ながらかなり改善されてきており、原発に依らなくとも十分な供給が確保されているという客観的な理由が裏付けになつていて。

東京電力福島第一原発事故以来、日本では放射能汚染による地域周辺一帯に、悲劇的な打撃を受けている。広範囲にわたって除染作業が進められてきているが、その住宅地とそれに近い田畠であつて、小地域に限定されている。何十倍もの山林原野はそのままの状態であつて、自然消去は半減期を単位とする計算になる。現状においても、汚染を除去した後の土の廃棄をどこにするか、決まらずに、周辺に個別的に袋詰めにして山積みされている現状である。原発事故周辺でも、いまだに汚染水の処理に困っている。原発敷地内からは汚染水の流出が絶えず、敷地は後から後から増える汚染水の保管で満杯である。レベルを低めて海に放出せざるを得ない状況で、なすべきことは全て苦肉の策である。更には原子炉内部に溶解した燃料棒をいかに取り出すか、取り出したものをどこに保管するか、年月

をかけた長い難問に取り組まなければならぬ。いつたん事が起きると、生命財産に致命的な損害をもたらし、原発の被害は無尽蔵である。その解決はトンネルの世に長くかつ悪魔の巣窟である。

国連難民高等弁務官として活躍してきた緒方貞子さんは、日本は原発は不適地であると昭和経済に論文を発表している。

経済産業的に見れば、仮にエネルギー源としての原発の効率を考えたときに優位に立つとしても、ひとたび事故が起きて稼働し得なくなつた原発ほど、人間の英知と技術をもたらすものであるといつていい。とりわけ地震国、火山国の日本にとって、原発基地を建設することは最大のリスクを覚悟しなければならないと、その安全は全く担保出来ないといつていい。危険は忘れたこ

ろにやつてくる。既に東電の福島第一原発事故の恐ろしさは、未解決のまま風化されようとしている。日本人の悪い癖で、のど元過ぎれば熱さ忘れるで、たつた四年前の東北大震災の恐怖と、それで惹起された原発事故の恐怖を既に忘れかけてきている。ましてや、七〇年前の戦前戦後の被害と惨状を知る人がだんだんと少なくなってきた。経験的に警鐘を鳴らし、未来の展望を期待して語る人が減ってきていている。原発の問題にしても同じである。

事故が発生した時はもとよりだが、正常な運転を行っている時にも、使用済み核燃料の捨て場所は探し当たらぬ。あの危険極まる、高濃縮度の放射性廃棄物の処理は一体どうするのだろう。地下深く埋めていく方策も考えられているが、地下の複雑な構造を克服して、絶対安全な処理方法を可能にする技術は見つかっていない。大規模

にわたる工事であり、しかも地下水の問題を含め、仮に地価の岩盤が崩壊した時に、出されてしまう強烈な放射能からくる影響は全く未知数である。安全対策は担保されていない。核分裂反応を応用した発電手法の将来は危険度満載で、確たる指針と展望は開けてこないままである。東電の原発事故の影響を経験した日本が、その壊滅的な恐ろしさを知った。しかもその原発施設は今日日本に五七基もあるというから、大災害の発生で日本の各地に原発事故が立て続けに発生したら、この小さな国土と住民は一体どのような危機に直面するだろうか、状況を予想することも出来ない。そうしたことはないという保証が皆無だから心配なのである。

日本の目覚ましい経済発展の一部が、安価なコストの原発に依存してきたことは紛れもない。半ば安全神話とされてきた原発

に依った、エネルギー政策の恩恵にあずかつてきたことは事実である。しかし東電の原発事故の教訓は、ひとたびことが起きた

時には、時間をかけて嘗々として積み上げてきた目覚ましい経済発展の痕跡は、一瞬にしてぶち壊され、国民は路頭に迷う結果だつて無きにしも非ずである。そんな心配

を常に続けながら、これから先、想像もで

きない長い年月の間、人間生活と、社会活動を続けていくことほど馬鹿馬鹿しいことはない。科学的見地から原子力規制委員会の策定した基準の合理性について、司法の場でその是非をめぐって審議されて福井地裁の判決が出たところである。しかし川内原発についても同じように審議されて近いうちに判決が出ることになっている。難問山積を乗り越えて、お互いに英知を發揮して未来のエネルギー政策も国民的な合意を得て推進していくなければならない。むろ

ん経産省の国策にかなつた英知を發揮して油断なきようお願ひしたい。

こうした時期に差し掛かって、福井地裁の出した原発再稼働差し止めの仮処分の決定は、事の重大性を国民に改めて知らしめ、冷静に認識させる結果となつていて。

超激務の安倍首相

ここにきてアベノミクスの成果を占うデータが示されてきている。それは一部上場の優良企業の業績の上昇と、賃金のアップが顕著にみられるようになつたことである。特に輸出産業を主体にして、円安の恩恵を受けて、電気、自動車、電子部品などの企業に特徴がある。問題はこうした企業に連する中小企業に、社員の給与としてどのような効果を齎してくるかが焦眉の点であ

る。連日の国会の予算審議でも、野党の攻勢を巧みにかわして、専ら経済の好調を宣伝する安倍さんに軍配が上がっている。世間では堅調な企業業績に添って経営者諸君が、押しなべて賃金アップに前向きな姿勢を示してきていることは、好ましく思うし、ひいてはブーメランではないが、これがさらなる企業業績の好循環をもたらしていくことは確実である。かくたる上は、自信満々の政局運営、心身ともに絶好調の安倍さんである。

テレビの報道を見る限り忍者のように活動する素早い安倍さんを見て、いつたい休む時間が十分に与えられているのだろうかと案じるくらいである。内外の仕事を迅速にこなしている様子に、真似るわけではないが、毎日の仕事を前にして自分も負けじと奮闘して考へ、動き回つてゐる昨今である。官僚の諸君が安倍さんを補佐して準備

万端、そつがなく用意してくれるとは言つても、骨子は首相自身のものがなければ、仏彌つて魂をいれずで、価値あるものとはならない。大事なところは安倍さんの政策理念を基本に入れて、国民に訴えるものとしなければならない。国会の開会に始まつた衆参での施政方針演説、代表質問に対する答弁、衆参での論客を相手にした予算委員会での集中審議に対する答弁に、連日のごとく終日を費やしていたと思うと翌日には、来日中の英國のチャールズ皇太子と福島視察に向かつており、また常磐高速道路の開通式に臨んで帰京したと思つたら、今日は又朝から国会での集中審議に熱くこたえている。

野党の質問者に對して、質問中に思い余つた首相が言葉をはさんだことを以て野次を飛ばしたと、その品格を問われたり、散々

な目に合う場面もあるが、総じてそつがなく野党の攻撃をかわしているようである。

仕事だから仕方がないと云つてしまえばそれまでだが、うかつな発言は厳に禁物である。首相自らこうしてみると質問者に野次を飛ばすというくらいでなければ、我慢ばかり強いられていても気の毒な気がする。そんなことは云つていられないのだが、事は国家、国民に関する重大な話し合いをしているのだろうから、真剣であれと云うことには理解すればそれでよい。国会の論戦のテレビ中継を見て、言論の自由がいかにこの国で行われているか、如何にこの国の民主主義に貢献しているか、如実にわかるような気がした。こうしてみると年齢的に首相が務めるのは、せいぜい 65 までだろう。論戦では管轄外の所轄大臣が欠席する中、いつも安倍さんの隣に座つて黙想の副総理、財務大臣の麻生さんが勤めているが、苦虫

をして、ご意見番としての威儀を以て臨んでいるのが頼もしく映るのである。

これまで大臣が政治と金を巡つて辞任したり、辞任すればすぐ次の大臣の就任式であつたり、それ以前に、疑惑の大臣を一生懸命かばつたりして神経の休まる時もないだろうに、同情しながらも声援を送っているのである。頓馬な大臣の答弁で、議場が荒れることがある。議事進行も、安倍さんは次第でどうにでもなつてしまふから、その場の得意即妙の適宜、適切な判断が必要である。官僚諸君との緊密な連絡と意思の疎通がなければ一人ではやつてゆけない仕事である。安倍さんに付く菅官房長官も大変だろうが、安倍内閣は安倍さんが一人舞台の大活躍で、ほかの大巨諸侯は無論のことと政務次官や、党幹部や普通の自民党議員などは付け足しみたいなもので、所詮仕事としては一体何をやつてているのかなあと訝

しく思うのである。まさかどこかの村会議員の諸侯のように、温泉料理屋の部屋を借りて、親交を深めながらコンパニオンを呼んで議論をしあつてることはないだろう。

どちらかと云えばそのくらいの呑気な時間もあつてもいいだろう。ただしけちつたりして、コンパニオンの線香代も払わずに税金で落とすような気持では大した仕事はできない。失格、落第である。安倍さんが懸命に働いている間、暇を持て余し、好きなことをして遊んでいることはあるまいと思うのであるが、それは見ているわけではないので分からぬ。仮にそうであつても、公私混同ではいけない。コンパニオンだってやんとした職業である。呼んで差し上げることはあつてもいいが、呼んだ費用は自分で払いなさいということは当然である。そもそも酒を飲みながら公務について話し合うとか、遊び半分で公務について議論し

あうとかいうことは、所詮国民をばかにした話になつて不見識丸出しで、あつてはならないことである。

一人舞台の偉人とは云つても一人の力には限りがある故、有能な政治家や官僚諸君が隠れているとすれば、安倍さんを見習つて進んで意見を発表して、多くの賛同を得て積極的に行動を起こすべきである。それが公人としての務めである。近頃は何かと云えどすぐにマスコミにスクープされたりして物議をかまし、物言えど唇寒し、で優秀な官僚諸君たちの発言が後退しているのもさびしい気がする。昔は、当会でも各省の優秀な官僚諸君に講師をお願いしたりすると、積極的に喜んで来て下さつたものであるが、あの頃以来、影をひそめておとなしくなつてしまつた。最近は退官した諸君が独立して評論家に転身したり、大学に籍を置いて学徒の教育がてら教授にとして籍

を置いたりして新天地を求めていく人が多く見かけるようになつたが、これは甚だしい傾向である。

学生時代から実社会で活躍する人たちの指導を受けたりすることは、若い研究者にとっては早くから実践的な訓練を積むことにもなつて、世の中に即戦力として活躍できることにもなる。むろん基礎的な学問研究を積んでのことである。優れた先輩たちに学んで、多くの人が立派な理念、立派な意見に賛同して行動を起こすだろう。安倍さんが提唱する積極的平和主義と同じように、積極的民主主義につながつてくる。積極性を發揮することは、世の中のエンジンを最大限に有効に使う力であり、これを駆使しない手はない。話は飛ぶけど、東北大震災の復興が遅々として遅れている現実がある。会計検査院の調べによると、震災、原発事故の東北被災地への復興予算について

て、その35パーセントが使わずに残されているという。又日経の報道によると、昨年の7月31日現在2兆6523億円の使からない事実が露呈されたが、これがいい加減な始末の実態なのかもしぬれない。

巨額の復興予算が現実に使われずにいる事実が分かつたが、そもそも不必要なところに金を使わそうとする内容だから、使えないでいるとも言える。稚拙な検討で予算を要求したりすると、こんな始末になるのである。余つて居るからとか、残っているからと云つて、早く使うように指示したりするのもおかしいのではないか。不必要な予算かもしれない。無駄な使い方は厳に慎まねばならない。そのお金は降つてわいたものではない。国民の尊い、汗と努力の結晶の税金である。国の予算の組み立ても大

切であるし、予算の施行も現場で実効性、有効性を実現するものでなければならない。一生懸命に働いている安倍さんもそうだが、同じように中小企業の社長さんたちだって一生懸命になって働いていても、なかなか会社の業績を回復するまでにアベノミクスの恩恵が及んでこないというのが実情である。日銀の黒田さんによつてこれだけ金融大緩和がなされて、日銀からお金がじやぶじやぶと市中に出回つていても、中小企業の資金繰りは楽ではないようである。必要なところに、必要な生きた資金が向かつていないとということである。

東北の被災地ではお金が使えずにじやぶじやぶになつてお金のバブル状況のようだが、中小企業の資金は枯渇して操業度が低下している。資金分布の格差だ。地域的、限定的かもしれないが、その資金量は大きい。こうした観点から見ると都会と地方の

資金的格差が存在して、おかしな逆転現象が起きている。政・官指導の経済だと、どうしてもこうした傾向になりがちだが、幸い民間経済の指導者を得た企業では、世の中の変転に即座に対応して、企業の発展にむかっているし、それはトヨタを代表とする日本の大手企業の躍進する姿に似ている。地域間のギャップ、企業間のギャップ、生活者のギャップ、こうした現象の解消こそ重要である。外に向けては軍事的連携の誘惑を排し、平和的、友好関係を推し進めていくことが必要である。

戦後70年を迎える今、首相談話が論議的になつているが、談話があるとすれば、国内はもとより国際社会に大きな感銘を与えるような夢と希望にあふれた内容のものであつてほしいものである。即ち、清新にして氣宇壯大な内容のものであつてほしい。過去の歴史に偏重しすぎてもいけないし、

決して無視するわけではないが、河野談話を行はじめとして村山談話とか、小泉談話とかがいつまでも課題の焦点になつてゐるが、それはそれとして近隣諸国との積極的な平和への交流を進めるこことによつて、青年らしい未来志向の弾力性を持つたものであつてほしいものである。将来の希望に向かつて実現に向けた輝くロードを構築する先鞭をつけたものであつてもらいたい。人類に発信したもので、先進国、發展途上国だけでなく、例えばアルカイダ系、イスラム系暴力組織を飲み込むくらいの勇壮な政治的意識を確たるものとして、どこにでも向かいきつていくような理念と信念が肝要である。

平和主義、民主主義に徹してきた戦後70年の重い歴史があればこそ、できる仕事である。戦争によつて日本は原爆の洗礼を受け、焦土と化した国土から立ち直つて、

平和憲法のもと、戦争放棄を以て今日まで発展の道を歩んできたこの実績こそ、尊いものだし誇りとすべきものであつて、この実績こそ海外に向けて広く発信してゆくべきである。日本だけにしかできない業である。残念ながら東京電力の原発事故のような事件もあるが、技術立国、経済立国の誇りを示し、物心両面からみた高らかな心情を吐露したものであるべきで、現実的に見ると、こうした意味でアベノミクスも今、すべかく真価を發揮すべき正念場にある。

・ · · · · · · · · · · · ·

ブーチン先生の暴言、

冗談じやない、氣でも違つたのかと一瞬思つたくらいである。餓鬼ざまに似たブーチン先生の発言である。大国の指導者としての、見識欠如も甚だしき暴言である。即刻、国際政治の舞台から退場すべきである。

たかがクリミア併合程度のことざまで、核戦力を戦闘態勢に置く準備があつたとぬかしおつた。飛んでもない発言をする政治家である。たかがクルミア程度だろうがなんだろうが、小さからうが、でかからうが、核戦争を仕掛けようとしていたなどと、当世やくざまがいの、無茶苦茶な指導者を据え置くロシアと云つた国は一体貪ん国なのか、その国民は、あのニヒルな顔つきそつくりの、ドストエフスキイ的陰湿で非情な民族でしかないと思われても仕方がない。どう見ても正気の沙汰ではない。たかがと云つたのは、クリミアで左様な暴虐をしてしかたら、核戦争を起こしたことになり、核戦争が始まつたら、人類は破滅しかないということである。まさか核兵器使用を限定的に絞つてやるなんて考えたわけでもあるまい。

プーチンと同じような考え方を持った人物がロシアにいるとしたら、お先真つ暗な世の中になつてしまふだろう。せめてかくのごとき気違いざまの人物は、プーチンだけであつてほしい。そしてそのプーチンに核兵器のボタンを押させないようにすることだ。ロシアの経済は今夕ガガ緩んで、国民は経済の低迷とインフレに苦しんでいる。原油価格の下落とルーブルの下落、そして歐米の経済制裁で経済は委縮し、苦渋を強いられている。国民の鬱積する不満のガス抜きを図るつもりで云つたとすると、いささか軽率である。世界が核軍縮に向けて努力中であり、核兵器廃絶に向かつてきた努力と歴史を踏みにじり、道半ばの成果を完全に否定する暴言が、今の世界に与える悪しき影響が、仮に広まつていくとすると世界

は恐怖のどん底に落とされてしまう。世界の一人ひとりが、ブーチンの暴言に目をさまし、改めて核の脅威を認識し、さらに核兵器廃絶の声と実践の足掛かりをつかむものとしなければならない。テロの拡散が今、世界の各地の地盤の緩いところで惹起されているが、ブーチン先生の発言が、こうして地域に漫然と伝播していくとしたら、人間の殺戮に無神経な人物たちの衝動を驅りたてる結果になりかねない。

こうした風潮を限定させて封じ込め、これ以上の拡大を阻止していく必要がある。だとすれば逆にとらえてブーチン先生の暴言が、世界の人々に改めて核の脅威を認識させて、核兵器廃絶のための行進を世界に促したというように解釈すればいいわけだ。ブーチン先生よ、これで良かつた、今後はあまり軽はずみな言葉を吐くことのないようにお願いしたい。そして核廃絶の行進に

参加して、世界に啓蒙のうねりを高めてもらいたいものである。地域紛争の無益な、残酷な状況を目の当たりにして、今こそ人類が真の人間性を取り戻す機会とならんことを、繰り返し述べている点だが、世界の政治家、とりわけ大国の指導者が率先して範を示し、世界の人々の啓蒙を図り、そうした状況に気づいてもらわないと困るのだ。日本は、近く来日するブーチン先生にお願いしなければならないことがある。それは北方領土の四島の日本への返還問題である。戦後七十年が過ぎようとしている。終戦間際、旧ソビエトは日ソ不可侵条約を破り、敗北して無政府状態の日本に宣戦布告して軍隊を以て怒涛のごとく侵入し、邦人を苦しめ、満州、樺太、千島列島を占領し配下に収めた。無謀な攻撃にあつた日本人は多大な犠牲を払つて、今なお悲惨な当時の状況が語り継がれてきている。嚴冬のシ

ベリア抑留で過酷な強制労働を強いられ、6万人とも言われるおびただしい日本人が倒れて亡くなつた。看過しがたい歴史的事実があるが、それはそれとして、ロシアは、日本古来の領土である択捉、国後、歯舞、色丹の領土を潔く返還し、日ソ平和条約に向けて締結する具体的な交渉に入るべきである。これら四島は、軍事的、地政学的に見れば、或いはロシアの極東地域におけるそれなりの重要性があるとしても、日ソの間には対立、抗争する要素は将来においてもないはずである。紳士的に信頼関係の構築に、日本は常に積極的に、平和的に友好関係の精神を原則として対応してきている。そのためにも懸案となつていてる領土問題の解決に取り組んでもらいたい。広大なロシアの領土からすれば微々たるものである。日本に返還して、これらの地域開発を高度なレベルに引き上げて、日本の開発技

術と意欲にゆだねた方がロシアにとつても有利になるのではないか。低迷したままのロシア経済の回復が、これからさき何年かかるかわからないが、視点の転換を図り、日本の技術と、資本を駆使して、逆にロシアに多大な利益をもたらし、さらに交易の拡大に利すること確実である。三月一七日

・・・・・

安倍首相の訪米と議会演説

従来の世界銀行と中国のA I I Bの参加生
かしむ

中国とアジア地域の経済の市場をにらむA
I I B

経済の基盤をアジアに構築すA I I Bに参
加すべきと。

アメリカ両院議会の演壇で安倍首相が始まめて演説した。戦後七十年を迎えたこの年には、日本を取り巻く世界の状況は大きく

変容した。中でも十三億の人口を有する中国の進出は顕著であり、アジア地域はもとより、世界に渡つて絶大な影響力をもつてきている。日本はそれに対し日米同盟を堅固なものとして再構築をはかつてきていた。それに対応して国内の法整備を行つた。

国会に提出して審議可決して、渡米に備えた。集団的自衛権の発動と、その及ぶ範囲も米軍に呼応するもので、今後の自衛隊の派遣が直接かかわつてくる。日本国憲法第九条の国の交戦権を認めないとする条文に触れて、憲法違反だと国民の大多数は素直に理解しているが、政治の流れはこれにブレーキをかけている。なし崩しで、日本が戦争放棄の条項を無きものにしつつあることは明白だが、しかし、自由と民主と平和主義の基本は変わらない。こうなつてゆく以上、日本の使命は戦争に加担するのではなく、戦争をしなくて済むような国際社会を

築いてゆくことに軸足を大きく変るしかないと。戦火を交えず、話し合いによる平和解決に邁進すべきである。そうした意味でも国際紛争を平和的、外交的話し合いを貫徹し、経済と民生の為に万全と期す国家として世界に貢献すべきである。

オバマ大統領が安倍さんの來訪を歓迎して一句を詠んでくれた。外交辞令と云つてしまえば、それまでだが、歓迎の意を示して余りあるものである。松尾芭蕉も驚く程の名句かと思う

「春青葉日米同盟なごやかに」

一句のようすに世界が青葉若葉のように輝いて、お互いが和やかに繁栄を享受する世界を作つていきたいものである。安倍さんのアメリカ議会演説も見事であつた。同じ様な演説を中国の大会堂でも行なつてもらいたい。その時には日本も米国と共にA.I.I.Bに参加しているだろう。

四月三〇日

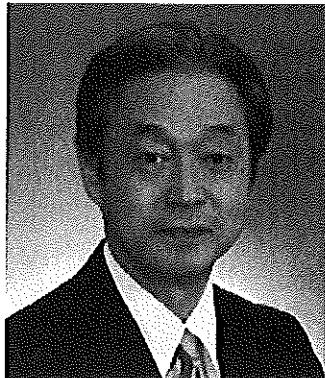
定例講演会

於・三笠会館

今年の内外経済を展望する

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング

経済評論家 五十嵐 敬喜



そういう中で、今年（平成二七年）はどうなるかということを考えますと、今年は、今、消費税のせいで物価は2%上がっていると言いましたが、今年の四月になると、物価の上昇は昨年の四月を比較すると、消費税の水準は8%で変わらないわけですから、ということは、消費税のせいで物価はもう今年の四月から上がらなくなります。そうすると、今2%かさ上げされている物価がすとんとなりますが。あと1%程度のそれ以外の要因で上がっている物価、これが残るわけですが、でも数字のでき上がりからすると3%ぐらい上がっている物価が1%程度の物価上昇率に今年の四月から一気に小さくなるわけですね。給料が1%余り上がっているとすれば、実質的に収入はプラスになります。昨年の実質収入は大きなマイナスが続いていましたが、それがプラスに変わっていくというふうに考えると、今年は消費がちょっと回復

して、少しいい年になるのではないかなと思うのです。そうしたときに、もし日銀が物価を引き上げるためにお金の供給をばんばん増やしている、これは今も続いているわけですが、もしこれがきいたら、物価が上がってきたり、また景気が悪くなるわけです。でも幸か不幸か、私の見るところ、日銀が今生懸命やつているこのお金の供給を増すという政策は効かないと思つています。効いてないし、これからも効かないと。効かないことが皮肉なことに景気をよくするということではないかと思うのです。

何で効かないのか、これは実は明らかなわけで、お金の供給を黒田さんは一年間で倍増させると言いました。一昨年の四月に、昨年の四月に順調に増えていますと言いました。二年で倍増させる。二年たつたところで順調に増えていると言いました。ということは、五割は増えているということです。では一年

で五割増えたお金。お金って何でしよう。お金と言われて真っ先に思いつくのはお札ですね。じゃあ皆さんのお札の中のお札の量は二年前年の四月に比べて昨年の四月に五割増えましたか。そんなバカなことはありません。財布の中のお札の量というのは自分で決めているわけです。幾ら引き出すかということでもつて決めているわけで、日銀が輪転機を回したら何かいつの間にか財布の中身が増えるわけでは毛頭ないわけです。そうすると、こういうことです。今、世の中に九〇兆円ぐらいお札あるのですが、何で九〇兆円あるのですかといつたら、みんながいろんな理由で預金口座からキャッシュを引き出して、その引き出されたキャッシュが今たまたま世の中に九〇兆円あるということです。もとはといえば預金であるわけです。預金というのは九〇兆円の一〇倍もあります。だからお金って何ですかといつたら、預金のことなのです。

現金、キャッシュというのは、それがたまたま引き出されたものにすぎないので、今の世の中、お金の本質は預金なのです。

そうしたときに、じやあ黒田さん、この預金を倍増させると言つて、じやあ一年たつたこの春に預金が五割増えましたか。皆さんの財布の中はともかくとして、預金残高が1年前に比べて五割増えていましたかと。増えてないわけですね。でも黒田さん、うそはついてない。増えている。五割。ということは、黒田さんが一生懸命増やしますと言つて實際増やしている預金というものは我々の預金ではないということです。

我々の預金というのは、我々個人があるいは企業が銀行に預けている預金ではないということです。世の中には実はもう一つ預金がある。それは何かというと、銀行が日銀に預けている預金です。これが一年で五割、二年で倍増するというものなんです。日銀は

これを増やしている。どうやつて増やすかといふと、御承知のように、銀行から日銀が国債を買い上げるわけです。買い上げて、代金を銀行から預かっている口座に振り込んでやる。銀行の当座預金なのですが、銀行から国債を買つては、代金を銀行から預かっている当座預金口座に振り込んでやります。これでやつてているのです。そうすると、国債を買えば買うほど銀行にとつては日銀に預けている預金残高が膨らんでいくわけです。これが一年で五割増えたわけです。

では銀行の資産が増えたのですか。そんなことはありません。銀行は国債という資産を持つていたわけです。でもそれを日銀に売つて、かわりに当座預金という資産をもらつている。だから資産の中身が国債から当座預金にかわつていています。では資産としての利回りはどうですか。国債の利回り、今や随分下がつて、1%もないかもしれません。でも

当座預金つてゼロですよね。利回りゼロですね。そうすると、銀行からすると、自分の資産の利回りが、国債から当座預金にかわるたびに、どんどん利回り下がっていくわけです。何で銀行はそんなバカなことするのですかということです。日銀の説明は、銀行がそんな状況を放置するわけはないでしょう。利回りがゼロみたいな資産ばかり増やさないで、この資産をもうちょっととましな資産にかえようとするでしようとしているのです。何かと言うと、それは企業への貸し出しだと。確かに貸し出しにかえればもう少し利回りがとれそうだし、貸し出しというの世の中全体にとつては景気をよくする効果があります。というのは、お金を借りる人の立場に立つてみれば、何で借りるのですか。借りたお金は返さないといけないので。金利も取られるのです。何で借りるのですかといったら、そりやあ今必要だからです。

後でいいのなら自分で金を貯めて、それを使えばいいと。あえて返す約束をして金利を払つてまで今借りるのは、今必要だからです。ということは、借りた金は必ず使われる。使われるということは、そのお金が誰かの懐に入りお金が回つていく。お金が回れば、それは景気にプラスだという話なのです。

ただ、問題は、銀行がお金を貸そうと思つたら、貸し出して増えるのですか。そういうのはいません。私の親会社は日本最大の銀行ですが、本当に苦労しています。貸し出しを増やせ、増やせって号令をかけても増えないので、借りた上で商売して、儲かる、利益が出るといけませんからね。ということは、お金を借りた上では返さないといけないし、金利も払わないと思うのだつたら借りるけれども、その当てがない限りはお金なんか借りないとということ

で、実は銀行の貸し出しが全然増えないということが続いてきました。

そうすると、結果として何が起るかというと、日銀はせつせつせつせと銀行から国債を

買い上げますと、銀行から預かっている当座預金口座へ、そのお金を振り込むから、この当座預金残高がどんどんどんどん増えて、一年で五割、もう一年たつたら倍増するということなのですが、そんなもの幾ら増したって何にも変わらないわけです。ということです。変わるのは思惑だけだったわけです。思惑は、このお金というものが預金のことであるとか、預金には二種類あるとかということを、実はあんまり考えていません。お金と言つたときに、あのお札をイメージしているわけです。お金の供給を倍増する。世の中にお金があふれ返るのかということですね。そうしたらお金の価値が下がつて物価が上がるとか、お金の価値が下がるということは円安だとか、こ

ういうことになるわけですが、実際のところは銀行から預かっている当座預金の残高がひたすら増えるだけで、何の影響もないということなのです。

そうやって相場がちつとも動いてこなかつたということは、何より効いてないという証拠なのです。でも日銀からすると、株価が上がらなくなるということは、資産効果で消費を増やすという、このことも続かなくなるわけです。円安で輸出企業がすぐ儲かつて、輸出大企業がボーナスを奮発するとか、そういうこともなくなつてくるとすると困るわけです。それから、日銀にとつては円安が進んで輸入価格が上がって、これが国内に転嫁されたら物価が上がる。それもデフレ克服だと言うのだつたら、その円安も進まなくなつたら、これも困るわけです。そこで、どうしたら、これも困るわけです。そこで、どうしたのか。追加緩和したわけです。マーケットをまた驚かせたわけです。で、ぼーんと上が

りましたということなのですが、結果としてどういうことが起こるかということです。話を纏めてみることにします。お金の供給を増やすという今の金融政策は効いていないし、また効きかないということです。しかし、思惑には影響を与えます。でも思惑というのはすぐ飽きるのです。飽きるから、飽きてしまつたら、また相場は動かなくなります。相場をさらに上げたいのなら、また思惑を刺激するような、びっくりさせるような政策を打たないといけないわけです。この間、一〇月の末に打つたのですけど、確かに株価は一万五〇〇〇円台だったものが今一万七〇〇〇円台ですから、効いているのですが、ではこの一万七〇〇〇円台が先ほどの追加緩和のせいで一万八〇〇〇円台、二万円行くかというと、それは行かないのです。ということは、またいいとここの一万七〇〇〇円台でずっと推移するということになると、そ

れがまたもつと上げなくなつたら、さらに追加緩和しないといけないことになります。

追加緩和の具体的な中身とは何かということ、日銀が銀行から国債を大量に購入するということがあります。購入して、この追加緩和する前に日銀が約束していたのは一年間で日銀が保有している国債の残高が五〇兆円増えるペースで買いました。五〇兆円残高が増えるといつても、国債は満期が来るものがあるし、満期が来たらなくなつてしまふわけです。そういう満期が来るものも考えて五〇兆円増そうと思ったら、もつと買わないといけない。こういうことをやつてきたのですけど、今度の追加緩和で八十兆円に増やしたわけです。一年間で残高を八〇兆円増すためには一〇〇兆円以上国債を買わないと、八〇兆増やすことはできないのです。結果的に残高が八〇兆増えるわけだけど、じやあそもそも世の中で国債って一年間に残高どれぐら

い増えるのですかと。発行したら増える。償還したら減る。差し引きして幾ら増えるのですか。世の中、三〇数兆円増えるのです。一年間です。世の中全体で三〇数兆円しか増えないので、日銀は八〇兆円増やすと言つていいわけです。ということは、発行された国債は全部買って、その上、民間が今持つている国債まで買い上げるということです。こうしない限り八〇兆円増やすことなんかできなわけです。すさまじい国債の購入をすることになります。そうするからこそ、五〇兆円増やすと言つていたのが八〇兆も増やすと言つからマーケットはびっくりして、一万五〇〇〇円から一万七〇〇〇円にいきましたが、また一万七〇〇〇円から上がらなくなつたら、今度は八〇兆円を一〇〇兆円にするのですかと。全ての国債は全部日銀が買いますよと言ふんですかという、こういう問題が起ころてくるわけです。

そういうので、ちょっとこのむちやな政策というのは非常に問題だと思うのです。何ですか。問題かというと、国債を大量に買うから、それは値段が上がりります。値段が上がるということは、国債の利回りが下がるということです。今、一〇年債の利回りが〇・5%しかないわけです。もう世界最低です。あるいは歴史的に見ても最低という金利。これはこの日本銀が大量に買っているからですが、でも日本の財政状況が極めて悪いということを考えると、本当なら例えば消費税の次の引き上げを先送りするなんて言つたら、国債の相場が値崩れするとか、金利が上がるということが自然な反応だと思うのですが、しかし、それを日銀が大量に買うがゆえにそんなことが起こらないわけです。つまりマーケットから警告が出るはずのものを無理やり抑え込むと言つたことになります。体の不調は、例えば発熱ということになつてシグナルが出る

はずなのに、何か頓服でも無理やり飲ませて熱を抑え込んでしまう。でも病は進行しますよと。病が進行しているときに、本来なら熱が出てきて、この病の進行を知らせてくれるはずなのに、それを無理やり抑えるから、病が進行していくも自覚がないと、こういう状況をずっと続けていたら、将来実は大変なことになりますということです。今すぐには大丈夫だとは思いますが、大変なことになるとおもいます。

大変なことになるというのは、そのうち国債を誰も買わなくなるわけです。今は銀行や投資家が買ったものを、日銀が素早くそれを更に買うということをやっていますが、そもそも誰も買わなくなると、はなから日銀が買うしかないということになるわけです。はなから日銀が買うことを直接購入というわけですが、中央銀行が直接購入するというのは、輪転機を回して国債を買うというふうにみ

んながイメージするわけです。別に輪転機を回すわけではないのですが、でも輪転機を回してお札をどんどんどんどん世の中に発行して国債を購入する。それは、ハイパーインフレですよと、こういうふうに起つてくるのです。少なくともお金の価値が暴落するというふうに、マーケットでは判断するわけです。

そうすると、お金の価値が下がるというのは、国内的に価値が下がると物価が上がるということで、対外的に価値が下がると円が暴落するということになります。私は多分、國內的に日銀が大量に引き受けたからといって、物価が高騰するわけではないと思うのですが、実は円は暴落するおそれがあります。一五〇円とか一六〇円とか一八〇円とか、こんなふうに大きく円安に振れてしまうおそれがあると思います。こうなると、輸入物価がぼーんと上がるわけです。これが国内に転

嫁されると国内で物価が上がります。消費者は今までより余計に、同じものを買うのに余計にお金を払うのだけど、余計に払ったお金はことごとく海外に出て行ってしまうので、誰の懐にも残りません。だから今以上に、昨年の景気もちよつとそういうところはあるわけですけど、でもそんなものと比較にならないぐらい、みんなの所得が減って、物価がはね上がるわけですね。最悪の事態が生じるわけで、そういうことを実は避けないといけないのに、今のこの金融政策というものはそっちへ向かっていっているということなのです。

物価をともかく上げたい。そのためには経済学の理屈からいえば、お金の供給を増やすことだと。そういうことなのだけども、でも今増やしているお金というのは、何の効果もないものを、ひたすら増やしているだけで、業界ではブタ積みつて呼んでいますが、どんどんどんどん増えていっているだけなので、

実は効果がないと。でも効果はないけど、この意味のないマネー、預金残高の増加を実現させるためにやっていることは、国債を大量に日銀が購入しているということなので、そのことが後々大きな問題につながるおそれがあるのかなという気がします。

そういう意味で、本当はこのあたりでこんな政策は辞めたほうがいいと思うのですが、辞めませんね。これ辞めません。とことんやるしかない。薬を飲み切るしかないと黒田さんは言っていますし、手は幾らでもあるとも言っていますので、多分終わらないと思うのですが、そのことが私はちよつと心配かなという気がいたします。

そんな話ばかりいたしましたけれども、日本の場合は財政の問題は非常に深刻なので、消費税を上げると、消費税を例えれば一〇%まで上げると、日本の財政の問題が解決するかというと、そんなことはないのです。

ちよつとだけ申し上げておきますと、一番の問題は社会保障なのです。医療、介護、年金とか、こういう部分なんのです。社会保障の国全体の支出と、この社会保障というのは基本的に保険料収入で賄うのですが、原則として。保険料の水準と、それからこの社会保障の支出額の間に五〇兆円の差があります。赤字ということです。五〇兆円の差がある。この五〇兆円、一年間ですが、どうやって埋めるかということと、三〇兆円は予算から引っ張ってきます。残った二〇兆のうち一〇兆は地方自治体が地方税だとか国からもらう交付金なんかを使って埋めていきます。最後の一〇兆円というのは、積立金があります。積立金を取り崩したり運用益を使つたりして一〇兆円埋めています。しかし、この積立金は後二〇年ぐらいで枯渇します。そうすると、この一〇兆はもう出できません。あと地方自治体の一〇兆と予算の三〇兆と、四〇兆しか

出てこないということなのですが、大きな問題は、この社会保障の支出というのを毎年三兆円ずつぐらい増えていくということです。後二〇年で基金が枯渇すると言いましたが、に集めているわけで、現役の数はどんどん減っています。保険料収入というのを基本的に現役中心に集めているわけですが、現役の数はどんどん減る増えしていくというわけにはいきません。でも毎年こつちは三兆円ずつ増えていくので、二〇年たつたら六〇兆円。ということは、この今五〇兆円の差は一〇〇兆円を軽く超えてしまうということになるわけです。この差を埋めるのは、もう財政からお金を取り張つてくるしかない、予算の赤字を膨らますしかないということになつていくわけです。

こういう問題があるので、消費税というのを、例えば予定どおり仮に一〇%まで上げる。八%を一〇%に上げると幾ら税収が増える

か。一兆五〇〇〇億増えるのです。この社会保障が毎年三兆円ずつ増えるわけですが、一気に一兆五〇〇〇億増えるとちょっとと余裕ができます。でも社会保障支出のほうは毎年三兆円ずつ来て、二年で六兆、三年で九兆とやると、五年たつと一兆増えるわけです。ということは、消費税を5%上げて一兆五〇〇〇億入ってきた分が、五年たつたらもう食べ尽くされてしまうということです。

四、五年でなくなってしまうということです。では五年ごとに消費税を5%ずつ上げないといけないのですかということになるわけです。それは非常に難しいでことです。ではどうしたらしいということを実は考えないといけません。

今、政権が言っているのは、景気をよくすれば税収が入ってくるから大丈夫だと言うことです。まず景気をよくしないといけない、そして景気をよくするために消費税を先送

りするのですということなのです。それは確かに先送りすることによって足元の景気は増税をさらにすることにはいいわけです。それは当たり前ですが、でもそれで税収になつて返つてくるのですかということになると、はならないと思うのです。

そういう意味で、消費税を上げても解決策にはならないと申し上げましたが、でも上げなくていいというわけではありません。でも一番大事なのは、社会保障支出の拡大に歯どめをかけることです。それは年金の給付のスタートの時期を遅らせるとか、さまざまにことが言われています。いずれ、もう既に今、もらつていらっしやる方々にまでは及ばないと思いますが、これからもらい始める人たちとかというのは必ず影響を受けてくるということになるわけです。

もう一つの解決策として、こんなことが言われています。保険料と社会保障支出の間に

大きな差があるわけです。保険料を現役世代からもつと集めるというのは非常に困難です。でも歳出を抑えることもある程度の限度があるとすると、やっぱりどうかして収入を増さないといけません。というときに、増税ですが、消費税よりはもつと効果的な税金があります。それは相続税です。今の相続税というのは、殆どの人には関わらないわけですよ。そのかわり相続税を払わないといけない人にとっては、非常に評判が悪いのです。何でここまで取つてしまふのだという意味で、恵まれた方々ですけど、恵まれているが故に非常に不満が多いところです。そこで相続税を一律にする。例えば一〇〇万円しか相続財産を残さない人にとっても一〇%をかけます。一億円の人にも一〇%、10億円の人にも一〇%というふうに一律にやると、相当の税収が入つてくることになります。

この相続財産というのは、これもお耳ざわ

りかもしませんが、相続財産が大きいとうことは、今、社会保障によつて給付を受けている金額、これからも給付を受ける、そういう給付の総額と、現役時代に支払われた保険料の総額を比較すると、既に受け取つている人たちは圧倒的に受け取りのほうが多いわけです。でも間もなく受け取り始めるような人たちは、いいとことんとんなわけですね。これから五年、一〇年、あるいは二〇年先から受け取る人にとっては、もう明らかにマイナスになるわけです。払い込んだ保険料のほうが、受け取りの総額より数千万円大きいかということが、今の計算では成り立つてしまふのです。そういう意味では強烈な世代間の不公平が生じているという問題で、今、シニアの人たちに大きな財産が、この世の中全体で見たとき、若い人は持つてなくて、シニアの人たちが持つているとしたら、それは

たから、今受け取っている金額に比べてはるかに払った金額が少なかつたから、ここに相続資産が残っているのです。これに対して税金をかけると、いうのは社会的な正義にもかなうというような考え方があります。

どうなるかわかりませんが、日本がだんだんだんだん行き詰まつてくると、そういう形の税の大きな変化が起こつてくるでしよう。

今みたいにどんどん現役の人口が減つていくとすると、より少ない人が稼ぎ出す所得の総額は、それは増えないわけです。これから日本だって、そのうち成長率がマイナスになつたりするわけです。そうしたときに、でもこつちに資産がある、だからこの資産に税金をかけるというようなことにしていかないと、この少ない所得にもつともつと税金をといふと、もう現役は疲弊してしまつて、経済がますます回らなくなるという問題があるわけですから、そういう意味で、これが

らは不労の所得ではなくて、ストックの資産にもつと課税をするというような、そういうような方向に行くかもしれないという感じがします。

ということで、時間がたつた割には暗い話で申し訳ありませんが、随分、率直に申し上げたつもりで、そんなことをいろいろ考えております。

後御意見、御質問があつらうかと思ひますが、後の時間で聞かせていただければと思ひます。どうも御清聴ありがとうございました。

(拍手)

続く

戦後70年 想う

ミスター円

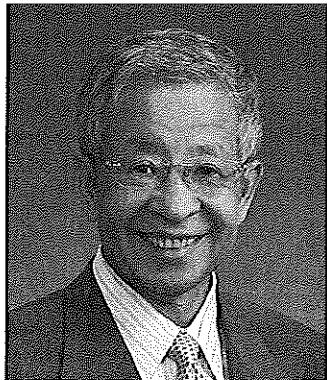
官僚は日本の柱でも黒子

国動かす仕事にやりがい

95年の円高強烈に介入
接待のルール突然変わった

青山学院大学教授

榎原 英資



私はもともと官僚志望ではなく、大蔵省に入つたのは偶然だ。大学4年生のとき、日本銀行の就職説明会があつて、その前を友人と通つた。そいつに「俺、日銀に入れるかな」と聞くと、「おまえなんか入れっこない」という。「じゃあ入れるかどうか購けをしよう」ということになつて、受けたら受かつた。でも、大学院に行こうと思っていたので、日銀に入る気はない。それで、父が心配して、父の知り合いに相談しろという。話を聞くと「日銀より大蔵省の方がいいぞ」と言われた。結局、翌年、公務員試験を受けて、大蔵省に入ることになった。東京五輪後の1965年だ。入つてみると、国を動かしていく仕事に大きなやりがいを感じた。

一番印象に残つているのは、急激な円高で産業界が悲鳴を上げていた95年、国際金融

局長として為替介入にあたつたときのことだ。当時は米国もドル安の行き過ぎを心配していたので協調でき、強烈に介入した。

△95年4月、円相場は当時の最高値となる1ドル＝79円台を付けたが、その後、政府・日銀が円を売つてドルを買う大規模な介入を行い、9月には100円台に戻した。榎原さんはその立役者とされ、「ミスター円」と呼ばれた△

交渉相手は、米財務副長官だったローレンス・サマーズ氏。米国に留学したときからの知人だつた。自宅の電話番号を教えあつて、自宅の電話でもよく相談した。具体的なやりとりはよく覚えていないが、米国に協調介入してもらつたり、日本の円高是正策への歓迎声明を出してもらつたりした。うまくいったのは日米の利害が一致したためだが、サマー

ズ氏との個人的な信頼関係もプラスに働いた。
97年には、通貨政策など国際部門を取り仕切る財務官になつた。私の発言で市場が動いたりして、とても面白い世界だつた。

高度成長

官僚の仕事は、国の行方を左右する大きな仕事だ。そのため、明治時代から優秀な人材を集めの仕組みがある。

明治初期には藩閥政治のなかで、コネによる公務員の採用が広がつていて、自然と癪着や腐敗がはびこる。そこで、首相の伊藤博文が公平な試験で官僚を選ぶ制度を作り、1894年に高等文官試験が始まつた。ドイツ（プロイセン）の制度を参考にした。それに向け1886年には官僚を育てるための帝国大学も作つた。この仕組みが戦後も残り、

継承されている。

強力な官僚組織が、戦後の復興や高度経済成長に果たした役割は特に大きい。復興期には通産省（現経済産業省）。石炭と鉄鋼の増産を最優先する「傾斜生産方式」を打ち出し、鉄を使う自動車、造船、電機などの産業を重点的に育てた。

高度成長期には大蔵省が引っ張った。1960年に池田勇人首相が「国民所得倍増計画」という国のグランドデザインを描いたが、

池田首相と計画のブレーンだった下村治氏（経済評論家）はともに大蔵省出身。官僚も適切な予算配分で、道路、港湾などの社会資本を効率的に整備した。

△60年12月に閣議決定された国民所得倍増計画は、10年間で国民総生産（GNP）を倍増させるという内容。「所得倍増」

という分かりやすい目標に国民は奮い立ち、結局、計画を大幅に上回る高度経済成長を達成した▽

経済が成長してくると、今度は財政金融政策に移る。公共投資などの財政支出で景気を刺激し、物価を金融政策で管理する先進国の方針だ。大蔵省と日銀との良好な関係も重要だつた。

「おどり」

高度成長が終わり、経済が成熟期になると官僚機構は曲がり角に立つた。

宮沢喜一氏（93年に退任）を最後に官僚出身の首相がいなくなり、人材面で政治と官僚機構の関係が薄れた。長く政権を担つた自民党が成熟し、人材を官庁に求める必要がな

くなつたのだろう。すると官僚への批判も出やすくなつた。経済が順調だったころは目立たなかつた強すぎる官僚機構の存在が、バブル崩壊後の経済低迷であぶり出され、批判を集めた面もあると思うが、官僚の「おごり」が表面化したことも大きい。

△95年、経営破綻した信用組合から過剰な接待を受けていたとして大蔵省の幹部が処分を受け、世論の批判を浴びた。98年には、金融機関からの接待が汚職事件に発展。起訴された大蔵官僚に対する判決のなかで裁判長は「日本経済の発展に貢献しているといふ自負が、おごりや傲慢さを生んだ」と指摘した▽

昔は接待が当たり前だった。赤坂や新橋の料亭で食事して、その後、飲みに行く。大蔵省が98年に接待問題で112人の大量処

分をしたとき、私も財務官として戒告処分を受けた。今はほんくなつたが、当時は突然ルールが変わり、若干、当惑した。

今も予算案を作っているのは官僚機構だし、法律もほとんど官僚が作っている。それを根回して国会を通す。議員提案でなければ法律にならない米国とは大きく異なる。

そのなかで官僚は「黒子」に徹しなくてはいけない。政治家を立てて、大臣を立て、実際に自分がやつたとしても、表に出ないというのが官僚の本来の姿だ。

官僚機構の重要性は変わつていらないし、これからも変わらないだろう。一時期、大卒の優秀な人材が外資系金融などに流れたと言われたが、心配していない。私が大蔵省に入つたころ、大企業と比べ月給は3分の2程度だつたが、それでも公務員志望者は多かつた。国のために仕事をしたい人材は今も多いはずだ。

橋渡しに期待

今の若い官僚たちには、批判を受けてもひるむことなく、責任を果たしてもらいたい。もちろん、おごりはあってはいけない。「自分が国を動かしている」という誇りは持ちながら黒子に徹する。自信とプライドがあつてこそできる」とだ。

さかきばら・えいすけ
青山学院大学教授。大蔵省では97年に、次官級の財務官に就任。活発に言論活動を行う異色の官僚として、国内外から注目された。

日本の官僚機構は戦後の復興、高度成長にどんな役割を果たしたのか。バブル崩壊後の難局で官僚批判はなぜ起きたのか。戦後70年の今、元大蔵省（現財務省）の官僚で、「Mr. Yen (ミスター円)」として国際的に知られた榎原英資さんに想いを語ってもらつた。

国内トップ級の成績優秀者が官僚になり、国を支えていることは多くの国民が知っている。しかし、「黒子」だけにその実像はあまり知られていない。戦後日本の発展に貢献してきただけに、もっと国民に身近な存在になれないものか。「発信力」で知られる榎原さんは、その橋渡しの役目も期待したい。

(読売新聞編集委員 佐々木達也)

榎 原 英 資

戦後70年

広島に花を 真珠湾にも花を

朝日新聞 ワシントンから

山脇 岳志

さんは20年前、ひとつニュースに衝撃を受ける。ドイツのドレスデン大空襲50周年の追悼式典で、米英の軍幹部も参加し、格調高く和解が宣言されたことである。

松尾さんは「日米はなぜ、このような儀式ができないのか」と痛切に思う。

「21万人の広島・長崎の原爆犠牲者や夜間無差別爆撃の死者を弔う意味でも、米国の大統領が広島に献花してほしい」「日本は、首相が『真珠湾の花束』で応えてほしい」。日本の大統領がヒロシマに献花する日」。

共同通信でワシントン支局長などを務めた松尾文夫さんが6年前、世に問うた。

松尾さんは11歳のとき、疎開中の福井市で米軍の空襲にあう。郊外に逃げて命拾いしたが、同じ小学校に通う26人の学友が亡くなつた。

松尾さんは11歳のとき、疎開中の福井市

* * *

以来、「アメリカ」にこだわってきた松尾

この春、安倍晋三首相が米国を訪れる。戦後70年という節目で、首相がワシントン以外にどこに立ち寄るのか、歴史についてどう

語るか、注目が集まっている。

一方、「核なき世界」を目指すオバマ大統領は、広島訪問に意欲を示したことがある。

だが、米国では原爆投下は戦争終結のために必要だったと考える人が今も多く、大統領の広島訪問のハードルは決して低くはない。

そのオバマ氏は来夏、主要国首脳会議で日本を訪問する予定で、広島はその開催地に立候補している。たとえ他の都市になつても、大統領が広島に立ち寄ることは物理的には難しくない。

「大統領が広島に行くのなら、その前に、日本の首相が真珠湾に行くのがよいのでは」。しばらく前、そのようなシナリオが、一部の米政府や日本政府の外交筋で、語られたことがあつた。

しかし、現状では、安倍首相が今回の訪米時に、真珠湾に行くことはなさそうである。ある日本のベテラン外交官は、「日米関係はこ

の70年、十分に成熟した。さまざまな波紋を呼び起す動きがよいとは限らない」と話す。外交関係者の懸念の一つは、中国や韓国の出方である。首相が真珠湾に行つて献花した場合、中国は「南京になぜ来ないのか」と言う可能性がある。米国との間に和解の献花が実現しても、関係のこじれている中国や韓国との和解をどうするか。

* * *

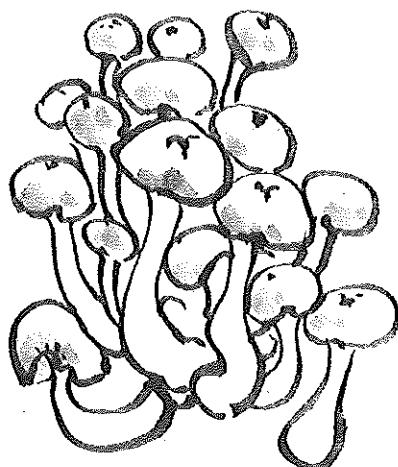
2年前、ドイツ短期留学中に、ドイツ人の歴史学者と和解について議論した。彼は「ドイツに比べて日本の状況が難しいのは、隣の中国に自己批判の精神がほとんどないこと」と話した。中国共産党は、国内の民衆からの体制批判をかわすために、日本批判を必要としている、と。

日本の「加害責任」は大きいが、日本と隣国との和解は、ドイツと隣国より難しい条件がいくつもある。

面識のない松尾さんに電話をしてみた。
81歳のジャーナリストは、熱く語った。

「日本と中韓との関係改善は、米国も望んでいる。首相の真珠湾への献花はその一步となる」。松尾さんは、希望を捨てていない。

(アメリカ総局長)



作品 関根常雄

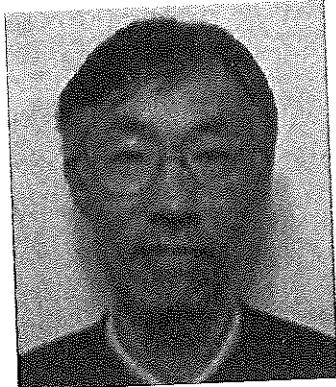
検証・異次元緩和2年

円安・株高定着大きな成果

企業収益・雇用が改善

同志社大学教授

北坂
真一



黒田東彦氏が日銀総裁に就任し、量的・質的金融緩和が導入されて約2年が経過した。政策効果を検証し、今後の課題を明らかにしたい。

緩和策は①2%の消費者物価上昇率の2年程度での実現②マネタリーベース（資金供給量）や長期国債、株価指数連動型上場投資信託（ETF）の保有額を2年で2倍に拡大③長期国債買い入れの平均残存期間を2倍以上の7年程度へ延長——からなる。昨年10月には追加緩和策として資金供給増額と国債やETFなどの保有残高増加ベースの3倍への拡大や国債残存期間の10年程度への延長が示された。

* * *

この間、日本経済に生じた顕著な特徴として円安と株高がある。一般には金融緩和で資

産価格が刺激されたとみられているが、図は円安・株高が緩和導入前の2012年秋、衆院解散前後から始まっていたことを示す。緩和が2年以上にわたる円安・株高の契機になつたとはいえない。

12年秋の円安と株高はヘッジファンドに代表される投機的な海外投資家が、金融緩和によるデフレ解消を主張する安倍晋三政権の誕生と、その後の大規模緩和を見越し、円売りと株買いに動いた結果とみられている。

理論的には、ゼロ金利下で金融緩和が円安をもたらすとは限らず、実際に過去には量的緩和でも円安とならない期間があつた。しかし、安倍政権誕生の前後から市場は大胆な緩和と円安を見越して行動するようになつた。ここで国内投資家と異なりデフレマインドの弱い海外投資家の行動がてこになり、日本の資産市場が動いたことは興味深い。

このことは、円安・株高は日銀の金融政策の結果というよりも、緩和を強硬に求める政権の姿勢が市場参加者の期待を動かしたことを示唆する。もともと多くの研究により、金融政策の効果には非対称性があり、金融引き締めは景気過熱やインフレの抑制に効果的だが、金融緩和単独の景気刺激効果は不確実で弱いことが指摘されている。

しかし、こうした見方は量的・質的金融緩和の価値を減じるものではない。安倍政権が誕生しても、物価安定目標や大規模な緩和がなかつたとすればどうだろうか。投資家の期待は裏切られ、円安・株高が一時的な現象に終わつたことは容易に想像できる。すなわち、過去2年以上にわたる大幅な円安・株高は政権主導であり、金融緩和は後追い的であつたものの、資産価格の適切な水準への調整に必須の政策だつたと評価できる。

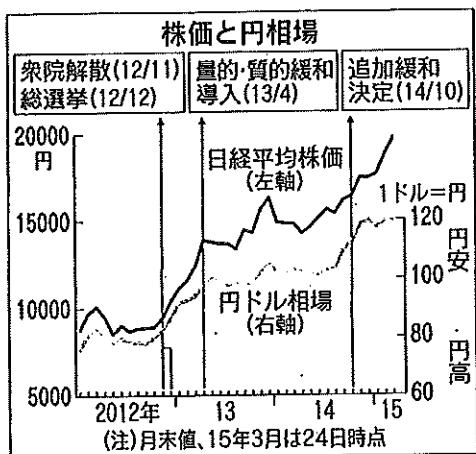
* * * *

具体的に緩和の中身をみると、物価目標への2年程度での実現という期限の明示やマネタリーベースの2倍増という目標設定は、強いコミットメント（約束）で人々の期待に働きかける効果を持ち、ETFなどの買い入れや長期国債の残存期間の延長は、株式や国債市場の需給に直接介入し、下支えする実体的な効果を發揮したと考えられる。

政権主導の円安・株高政策を象徴するように、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）などの公的資金が株式の投資比率を高め、並行して生命保険会社などの機関投資家が国債投資を削減し、外債や社債の投資比率を高めるようなポートフォリオリバランス（資産組み替え）効果もみられるようになつた。

また、昨年10月の追加緩和によつて、図

が示すように円安と株高は加速している。当時は消費税率の再引き上げ論議とともに原油価格も急落しており、インフレ期待低下のリスクに加えて消費増税後の景気回復の遅れもあわせて考慮すれば、追加緩和が必要な情勢だった。



金融緩和に支援された円安・株高、それに緩和が直接もたらす低金利は、実体経済に良い影響を及ぼした。まず円安による企業利益の好転である。自動車や電子部品といった輸出型企業を中心に、企業収益の改善が続いている。次に、株高による一部富裕層の消費や低金利による住宅投資である。消費増税の悪影響は大きかつたが、都心のマンションなど の需要は活発で地価の回復傾向も続いている。

さらに、雇用関連の指標の改善である。失業率は3%台に低下し、昨年春以降一部企業で賃上げが行われ、今春は賃上げの動きが一層強く、また、裾野を広げる勢いである。さらに米国経済の順調な回復や昨夏以降の原油価格の大幅な下落が追い風となつており、2年前と比較して経済の好転は明らかである。

* * *

このように日本経済の基調的な改善に貢献した日銀の量的・質的金融緩和について、今後の課題を指摘したい。

第一は、日銀が自らこの2年間を総括し、政策の枠組みや方法について問題がなかつたかを率直に点検して公表し、あわせて今後に向けて内容を調整することが望ましい。具体的には物価安定の目標について、「2年程度」という文言を削除し、「中長期的に」と変更すべきだ。

世界的にみれば、中央銀行が物価目標の数值を示すことは標準的だが、期限を区切るのは異例である。2年前の導入時、わが国は深刻なデフレ状態にあり、年限を示すことで政策効果を高める必要があった。しかし、現在ではその必要性は薄れている。

第二は、第一と関連するが、原油価格の下落効果の一巡や今春の賃上げにもかかわらずインフレ期待が低迷するようであれば、マ

ネタリーベースの増加や国債の大量購入という従来の枠組みにとらわれず、超過準備に対する付利の撤廃や、欧州で行われているマイナス金利の導入など、新しい金融緩和を試みるべきだ。国債市場の流動性の問題や緩和効果の観点から、必要に応じて新しい方法を採用する時期に来ている。

第三は、株価が急騰しバブルの様相を示した場合の対応である。資産価格は往々にしてファンダメンタルズから乖離（かいり）する。現在の株価は企業収益の増加に沿つたものであるが、すでにその水準は高く、さらに上方に乖離する可能性もある。

株価バブルに対しては、規制や監督によつて金融機関の健全性を確保し、バブルが崩壊しても経済全体に悪影響が及ばないようになることが基本である。しかし、それでも金融政策の予防的対応が必要というわけではない。

円相場についても同様である。過去2年間の円安は日本経済に総じてプラスと評価できる。しかし、この先ドル120円を大きく超えて円安が進むようであれば、輸入企業や家計に与えるマイナス面が大きくなる。今後の日銀には、物価だけにとらわれない柔軟な姿勢が求められる。

第四の課題は、金利が上昇する場合である。現在は日銀が期間の長い国債を購入することで基本的に金利は低位に抑えられている。しかし、国際の信認が低下し金利が上昇するような局面になれば、日銀による国債の購入は金融政策という本来の役割から逸脱し、正直正銘の「財政ファイナンス（財政赤字の穴埋め）」に追い込まれてしまう。こうした事態を防ぐために、政府には歳出削減による財政健全化の道筋を示し、着実に実行することが求められる。

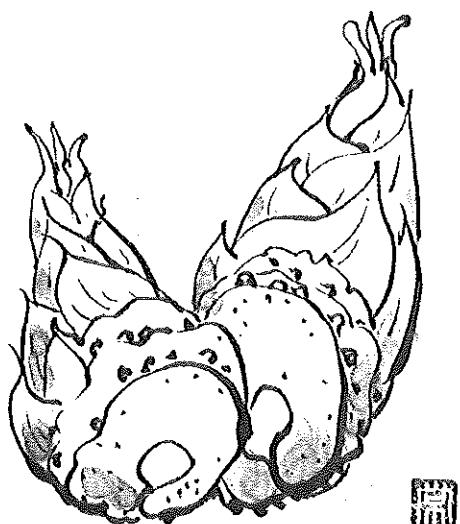
いずれの課題も、日銀にとって最大の焦点

は政府との距離感である。この2年間、日銀は安倍政権が推し進める「デフレからの脱却」という枠組みのなかで忠実にその役割を担ってきた。しかし、今後の経済情勢によつては立ち位置の調整が必要になる場面があるだろう。

政府と中銀は潜在的には常に緊張関係にあつて、歴史を振り返ると対立から協調まで大きく変化してきた。そうした関係が変化する局面においては、日銀総裁の力量が問われるうことになる。

きたさか・しんいち 60年生まれ。神戸大経済学博士。専門はマクロ経済学

北坂真一

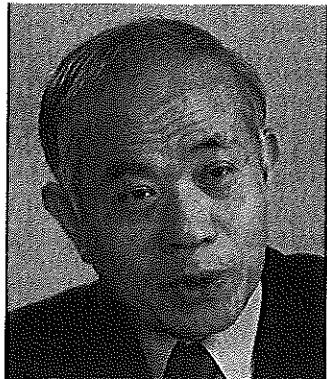


作品 関根常雄

イノベーションを生むには
産学官の信頼関係構築を
研究・事業化、国挙げて
成果評価の仕組みが重要

産業技術総合研究所理事長

中鉢 良治



昨年6月に閣議決定された日本再興戦略改訂版は、日本経済成長のエンジンとしてイノベーション（技術革新）創出を掲げ、国家としてイノベーションを生み出していくナショナルシステムの必要性をうたつている。イノベーションを成長の源泉として位置づけることは世界的な潮流であり、イノベーションを先駆的かつ効率的に創出することは日本が国際競争に勝ち抜くための必要条件だと言える。

日本企業の技術開発は自前主義の傾向が強いと言われている。自社による開発は製品やサービスの差異化につながることも多いが、製品やサービスが複合化している現在、一つの得意技術だけで優位性を保つことは難しい。コア技術を自社で育てるだけでなく、外部から技術を適切に導入していくことで迅速に市場ニーズに応えられ、リスクとコストの低減も可能となる。

これはオープンイノベーションの概念に

もつながる考え方で、日本企業にとって产学官連携（この場合の官は公的研究機関を指す）を活用した技術開発は、国際競争力を高める一つの現実的な方策だ。

一方、日本企業の研究開発投資金額は、大学や公的研究機関と比較して圧倒的に多いものの、主に自社の研究開発部門に向けられ、大学や公的研究機関との共同研究などにはあまり使われていない。

* * * *

なぜ、産学官の連携が進まないのか。
産業界からの視点については、文部科学省

挙げる。

大学や公的研究機関の基礎研究重視が、実用化への壁になつてゐる恐れはある。しかし応用研究は基礎研究なしには存在しえないし、実用化も応用研究なしには達成できない。必要なのは基礎研究の段階から、将来の応用研究とその先の実用化を見据えて様々な仮説を並行的に検証していく研究活動（目的基礎研究）を増やしていくことである。

企業からは、大学や公的研究機関の研究内容がわかりにくいという声も聞く。「これは、研究内容が『知られていない』」「企業にわかれているように翻訳されていない」とことを示しており、実用化につながる研究成果が「ない」わけではない。

の科学技術・学術政策研究所が毎年、企業の研究活動を調査している。企業の多くが問題点として、大学や公的研究機関には「実用化につながる研究成果が少ないこと」を第一に

まずは各機関が、研究概要を外部の人々に確実に案内できる「技術コンシェルジュ」を育て、窓口機能を充実させることに取り組むべきだ。将来、「技術コンシェルジュ」が横の

連携をとり、互いのデータベースを活用して、各機関・全国拠点をカバーするネットワークが構築されば、企業側の要請に、より効率的に応えることができる。

一方、大学や公的研究機関にとっては、企業からのニーズをつかみきれていないという問題もある。競争上不利になるという懸念があつてか、企業は将来の事業に関するニーズの開示にあまり積極的でない。産学官の間に信頼関係を構築し、機密性を保持しながら、技術の「シーズ（種）」と「ニーズ」を互いに探索できるような仕組みを早急に構築することが望まれる。

筆者が所属する公的研究機関では、技術を通して産業界との関係を構築する「イノベーション・コードイネータ」と呼ぶ人材を増強している。

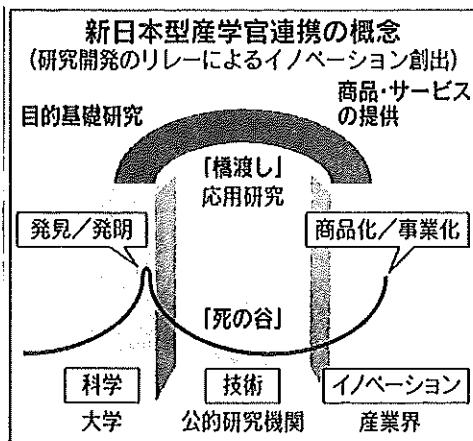
真に求められる产学研連携は日本全体と
いう視点に立ったイノベーションシステム
をどう構築するかにある。

技術は、事業化され人々の生活の中で使わ
れてこそ価値を持つ。ソニーの共同創業者で
ある井深大氏は、「最初の技術開発のための力
を1とすると、それを使える技術にするため
に10の力、事業化するにはさらに100の
力が必要」と指摘した。最初の開発が重要で
ないというのではなく、「一つの発明があれば
簡単に事業化できるはずだ」という安易な考
え方を戒めたのである。

かつては全プロセスを一企業の中で手掛
けることが多かつたが、これからは产学研官が
基礎研究から応用研究、そして実用化までを
連携して推進できるナショナルシステムを
構築することが重要となる。

大学や公的研究機関は論文へのこだわり
を修正し、企業は自前主義からの脱却にかじ

を切らねばならない。市場原理が働くない領域、すなわち基礎的で膨大なコストがかかり、長期を要する研究については、やはり官が主導すべきであろう。また基礎研究・応用研究と企業による事業化の間に、「死の谷」を乗り越えるには、公的研究機関による民への



技術の「橋渡し」機能が重要だ（図参照）。人材育成でも新たな視点が必要になる。まず、研究者が論文を出すことで評価される論文主義を改めなければならない。学術論文は新たな知見の創出と共有を通じて、新しい技術の「芽」を生むために重要なが、万能ではない。基礎研究、応用研究、実用化の各段階の特性に応じて、知財や企業からの研究費も用いつつ、成果を評価する新たな仕組みを設ける必要がある。

これまでではイノベーション創出のために必要だとして、専ら理系人材を育てるに力を点が置かれてきた。しかし今後求められる人材は、社会の状況を正しく理解し、社会と協調しながら、事業化へ結びつけていくことができる人文系・社会系のインサイト（知見）も有する理工系の人材である。こうした人材育成には、研究者側からの視点だけでなく産業側からの視点も踏まえて、産学官共通の課

題として考えるべきである。

大学と公的研究機関の間ではクロスアボイントメント（相互雇用）制度の採用を始めているが、現在は一方の組織と雇用契約を結び、他方は兼務という形をとることが多く、十分な成果を上げているとは言い難い。また各機関が人事や福利厚生制度を個別に運用しているため、受け入れ研究者に不利益になる場合もある。人材交流をより活発にするには、人事・厚生などの諸制度についても組織を越えた改善の視点が必要である。

* * * *

イノベーションシステムの構築でさらに重要なことは、そこから生まれてくる成果をどう評価するかということだ。海外の優れたシステムや研究機関の役割は大いに学ぶべきだが、評価方法については日本の産学官の

強みを生かした独自のものとすべく、注意深く検討する必要がある。

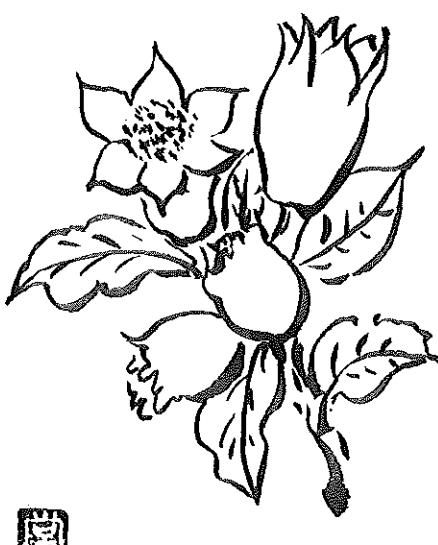
海外で発表されるイノベーション力ランキングなどで単純に相対比較をするような方法は安易に採用すべきではない。そもそもと言つたところで、100%事業化できるわけではない。目的基礎研究から事業化に結びつけた活動をどう評価するかはもちろん、事業化に至らなかつた研究にも、新たな知の創出や別の分野への波及効果を生むものがあるだろう。これらについても慎重に評価基準を定めるべきである。

主に研究論文に重きを置く大学と売上高や利益などの経営指標を目標に持つ企業が、研究開発活動で連携する機会を見いだすこと自体、簡単ではない。ましてや共通の評価指標をつくり、共に運用しようとすることはこれまでにない挑戦的な取り組みである。

ノーベル賞受賞実績が示す通り、わが国の大学の基礎研究力は世界でも有数のレベルにある。この研究成果を日本企業による新事業創出に結び付けることは「橋渡し」ゾーンにいる公的研究機関の大きな役割だ。産学官が新しい形で結合するとき、イノベーション創出の可能性は高まる。日本産業の次なる飛躍という共通の目標に向かい、産学官が総がかりで構築するナショナルイノベーションシステムが必要な時代に入っている。

ちゅうばち・りょうじ 47年生まれ。東北大工学博士。ソニー社長など経て13年より現職。

中 鮎 良 江



作品 関根常雄

2030年の電源構成

過大な省エネは国民負担

慶應義塾大学准教授

野村 浩一



米国に比べて2倍以上の電力価格負担を強いられている日本の消費者が、さらに価格上昇を受け入れる余地はあるのだろうか。福島原発事故を受け、稼働を止めた原発を補うため化石燃料依存度は88%に達し、電力価格は現在までに35%上昇している。

経済産業省は長期エネルギー需給見通し小委員会を設置し、2030年における電源構成について検討している。需給見通しには電力価格上昇の抑制は当然に織り込まれると思われるかもしれない。しかし、過去の政府試算では電力価格上昇はきわめて大きいものだった。12年、民主党政権下のエネルギー・環境会議では、国民に提示されたすべての選択肢で、30年における電力価格は60%から2倍以上の上昇となっていた。なぜこれほどの上昇となるのか。

* * * *

一般には再生可能エネルギーの増加の影響とみられるがちだが、実際には省エネ拡大の影響の方が大きい。省エネ（省電力）と電力価格上昇はコインの両面である。省エネは、

その多くが省エネ技術を体化した資本財の導入によって実現される。そして資本の更新時期を迎えたとき、追加的に大きな費用負担のないままに、新しい省エネ技術は緩やかに経済体系に組み込まれていく。市境経済において、省エネを加速するためには、企業や家計において合理的な投資機会となるよう、その背景に電力価格の上昇が必要となる。言い換えれば、将来の電力価格水準をターゲットとすれば、それに対応して実現可能な省エネ量の水準はおのずと定まる。

政府は電力消費者の負担とせずに、補助金や直接規制により省エネを推進してきた。しかし、そうした安易な政策手段による隠れた費用も結局は国民の負担となる。省エネへの

負担を余儀なくされた企業では、生産コストはトータルで上昇し、国際競争力を喪失していく。家計では教育や健康への投資が阻害される。

一般的に資本財価格は相対的に低下する傾向にあり、将来の電力価格が安定的でも、市場経済においても省エネ技術は時間をかけて導入されていく性質のものである。政策によって得られるのは、少しばかりの「前倒し」効果にすぎない。非合理的な選択は、最終的にだれの負担にならうとも、一国経済の成長力をそぐことになる。

政府はこの20年以上、コスト負担を顧みることなく、省エネ努力を数量的に積み上げることに腐心してきた。省エネの過大推計は、電力需要の過小推計を導く。そして二酸化炭素(CO₂)排出量を小さく、電力構成における再エネ比率を大きく見せる。ゆえに理想的な政策目標に近づけるには、禁断の果実と

なる。

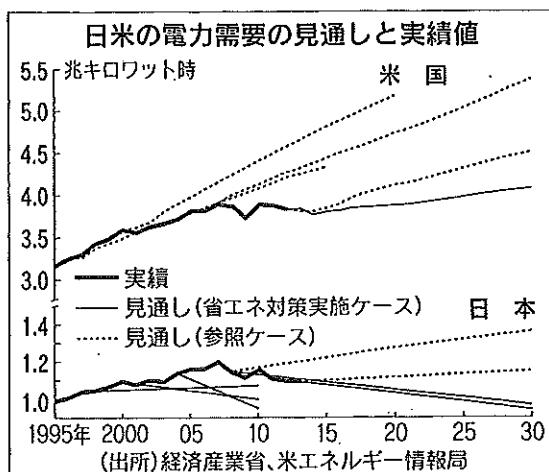
* * * *

図は日米両国における需要見通しについて、1990年代後半からの予測値と実績値の推移を示している。日本では少しの需要減少を契機に、その減少トレンドを引き継ぐように省エネが過大に推計されている。前政権の見通しを上回らない

率1・7%という高い経済成長率の想定のもとでも、省エネ努力の積算はきわめて大きなものとなっている。しかし

震災後の生産縮小によらない電力需要の減少は、その多くが省エネの「前倒し」によるものであり、30年時点で残る省エネ効果はわずかであると考えられる。

対照的に米国での見通しは合理的である。参考ケースは将来的予測としての機能を果たしている。09年には大



きく縮小しその後も停滞しているが、将来の需要は再び過去の成長率へと戻る見通しである。最良技術導入ケースでも増加が見込まれている。

求められる需要見通しは、企業が中長期の事業計画を構築しやすいよう現実性の高いシナリオであり、経済合理性を度外視した積算ではノイズでしかない。

電力需要の過小推計のもとに電力供給が計画され、もし将来に想定を上回る需要が現実化したとき、コインの表面（数量側）から見れば電気使用制限が停電、あるいは老朽火力の発電増加などでCO₂排出量が膨らんで海外から排出枠を購入するという負担を余儀なくされる。コインの裏面（価格側）から見れば、需要を大幅に減少させるため、筆者の試算では電力価格の倍増が必要となる。その結果、日米の需給見通しに基づけば、日本の電力および炭素排出の価格は30年には

ともに米国の5倍もの水準になつてしまふ。とても経済成長と両立するシナリオではない。

電力価格の倍増への懸念は絵空事ではない。エネルギー政策で先行している欧州諸国では、21世紀に入り軒並み倍増した。イタリアは欧州連合（EU）の電力自由化指令が国内法化された99年を転機として急速な電力価格上昇に見舞われ、13年には3倍、消費者物価指数で除した実質価格でも2・3倍へと高騰した。

産業ごとの成長率と生産コストに占める電力依存度はほぼ無相関だったが、高騰後は強い負の相関が見られる。窯業土石、ゴム製品、パルプ紙製造業など、一国平均よりも年率で3～4%ほど成長率が低い。電力価格倍増は、輸入財への代替や海外への生産移転などを通じて、国内の産業構造を大きく変えてしまう力をもつていて。その結果、80%近

く石炭火力に依存する中国や、過剰な再エネ負担なしに安定した電力価格を保つ米国へのシフトをもたらした。

21世紀に入つてイタリアの経済成長率はほぼゼロで、先進諸国で最低となつた。電力価格高騰による生産縮小は、一定の仮定に基づく積算でみれば年率0・15%ほどの成長率の低下要因と解される。これを日本経済の将来見通しに適用すれば、30年の断面では国内総生産（GDP）の約2・2%の下落となり、それまでに失う所得の総額は100兆円近い。日本が同じ轍（てつ）を踏んではならない。

い取り制度（FIT）による賦課金総額は15年度に1兆円を超えると言われるほど膨大となつた。一部が期待した経済効果も無残なものである。導入前には30%程であつた太陽電池の輸入シェアは、一気に80%近くまで上昇した。年率20%ほどで下落していった太陽電池の輸入価格は、導入後の13年初めには（外貨建てでも）プラスに転じ、過度な価格競争に陥つていた中国企業が大きく一息ついただけである。

FITは買い取り価格を固定してしまうことで企業の競争を阻害し、価格低下を阻む引力にすらなる。価格上昇を抑制するためFITからの出口戦略の構築を急ぎ、再エネの目標値は20%ほどまでとして中長期的に整備していくことが現実的であろう。

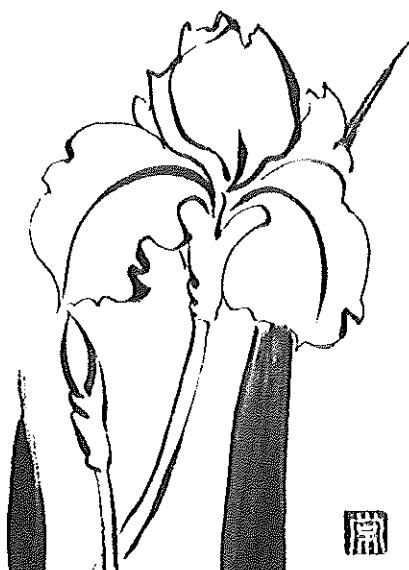
再エネは系統対策コストを含まずとも、経済性のある事業は限られ、ほとんどは政策支援なしに成り立たない。再エネの固定価格買

電源構成の見通し策定は、エネルギー政策における停滞を前進させる指針の役割も担う。エネルギー安全保障と低炭素、そして

経済成長と両立する電力需要に対応できる
ベースロード電源として、原発の役割は依然
として大きい。安全性と効率性の向上のため、
原発のリプレースも将来の選択肢である。原
子力は20%以上を目標とすべきである。残
りは石炭と天然ガスの間の民間企業による
選択である。原子力と再エネの適切なシェア
の維持は、自由化による価格上昇リスクの抑
制のためにも有益であろう。

のむら・こうじ 71年生まれ。慶大博士。
専門は応用計量経済学、経済統計

野 村 こうじ



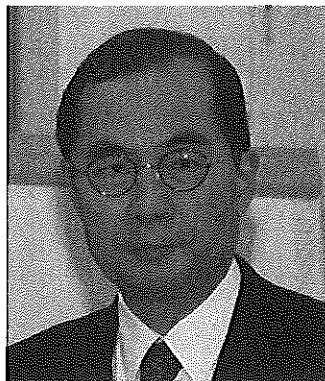
作品 関根常雄

賃上げ春闘

労使「握手」で決まる賃金
経済の「好循環」を後押し

東京大学教授

吉川 洋



桜の開花が近づく今月18日、今年の春闘は、大手企業による集中回答が行われた。多くの企業、産業で賃金を一斉に決める春闘は、「シユントー」として海外の経済学者、エコノミストの間で知られ、「カラオケ」と並んで有名だ。世界的に注目される春闘は、ここ20年ほど元気がなかつたが、今年の春闘は賃上げムードが一気に広がった。

全体の相場に大きな影響を与えると言われるトヨタ自動車は、賃金を底上げするベースアップ（ベア）について、現行の要求方式が始まった2002年以降で最高の月400円を回答した。02年は要求1000円に対しひや、リーマン・ショック後の09年も要求4000円にゼロ回答だったから、様変わりだ。

自動車では、大手だけでなく部品製造などを担うグループ関連の中堅企業にも賃上げが広がった。電機でも3000円のベアが実

現した。円安の追い風が吹く製造業にとどまらず、メガバンクも2行がすでに2年連続のベアを決めた。バブル崩壊後、長年収益の低迷に苦しんできた金融業界でもベアの復活である。

潮目が変わったのは、13年秋に安倍政権が官邸で開いた「政労使会議」からだ。この会議で政府は、円安の恩恵もあって業績が好調な大企業に対し、賃上げを要請した。その結果、昨年の春闘では久しぶりにベアが実現したのだが、物価の上昇ほど賃金は上がらなかつた。物価の影響を考慮した「実質」では、

賃金はマイナスのままだつた。中小企業の賃金は大企業ほど上がらなかつた。ただ、政府の呼びかけがなければ、賃金は上昇に向かわず、ベアもなかつたに違いない。

政労使会議にはすべての人が賛成しているわけではない。「市場で決まるべき賃金に政府が口を出すのは間違っている」「『官製

春闘』は市場を歪める」と批判する人もいる。賃金は市場で決まるものだ、と言われると素直に納得する経済学者、エコノミストが多い。しかし実はこうした主張は正しくない。もちろん市場で決まる賃金もある。典型はパートなど非正規労働の時間給だ。景気がよくなり人手不足になると上がり、逆に不況で人が余ると下がる。「経済学の父」と言われるアダム・スミスが、神の「見えざる手」（インビジブル・ハンド）に導かれるように、形容した市場における需要と供給の力で決まる。

一方、企業で働く正規社員の賃金は、文字どおり市場で決まるのではなく、労働組合と経営者の交渉を通して決まる。それこそが春闘だ。「見えざる手」ではなく、「目に見える握手」（ビジブル・ハンドシェーク）で決まるのである。

「人は城、人は石垣、人は堀」と言う。企

業にとつても、そこで働く人間こそが、将来の成長を生み出す源泉である。賃金交渉で不当な扱いを受けていた、と働く人々が不満を持つようでは、会社の将来は安泰ではない。

賃金交渉におけるキーワードは「公正」だ。だから賃金は、「見える手」で決まるのではなく、「目に見える握手」によつて決まる。米国のマクロ経済学者アーサー・オーカンは、かつて交渉による賃金決定をこのように巧みな言葉で表現した。

もちろん、そこでの交渉も、市場の力から完全に独立しているわけではない。しかし、賃金は、単純な需要と供給の論理で決まるものではないのである。

「公正」とは何だろうか。労働組合、經營者側、双方に言い分があるだろう。

物価が上がつていれば当然、賃金も上がるべきだ——そう労働者は考えるに違いない。実際、第1次オイルショック直後の1974

年、大インフレの下で行われた春闘で、賃金は30%以上も上がった。

賃金を上げると言つても、上げるために生産性が上昇していかなければならない。生産性の上昇に見合つた賃上げがあるべき姿だ——経営側はこのように主張する。確かに、生産性が上がらないのに、一方的に賃金を上げるのでは長続きするはずはない。

問題は、生産性がどのようにして決まるのか。だ。新鋭の機械が導入されて労働生産性が上がる。一般には、こうしたイメージが持たれているかもしない。駅の自動改札機を見れば分かるように、もちろんそうしたケースもある。しかし、生産性はそれだけで決まるものではない。

どんなモノやサービスでも、時とともに広く普及すれば、需要の伸びが低くなる。いくら品質が向上しても、価格が安くなつても、洗濯機を家に2台置こうという人はいない

だろう。売れないモノの製造コストをどれだけ下げる、生産性は上がらない。

こうした観点から日本経済の過去20年を振り返ると、ブランド力があり需要拡大が見込める新しいモノやサービスの創出が遅れる中で、コスト削減と賃金の抑制が行き過ぎてしまったのではないだろうか。

生産性を長期的に上げていくのは、イノベーション（革新）だ。しかし生産性は、短期的には景気によつても大きな影響を受ける。

モノがたくさん売れる好況のときに生産性は上昇し、モノが売れない不況のときには下がる。

景気の良しあしをよく反映する国内総生産（GDP）の約6割は、家計の消費である。その消費を左右するもつとも重要な要素は、人々が手にする所得だ。その所得を決めるのは、賃金である。

したがって、賃金を過度に抑制すれば、消

費が低迷し、モノは売れない。経済全体も、低迷せざるをえない。その結果として、生産性は上がらなくなる。だから、賃金をさらに抑制していくことになれば、まさに経済は悪循環に陥ってしまう。

先週、東京株式市場で日経平均株価は2万円の大台近くまで上昇した。市場のキーワードは「賃上げ」だった。賃上げが経済の「好循環」のきっかけになる、とマーケットは評価しているのである。

賃金の上昇により消費が増大し、景気が良くなれば生産性も上がる。そこでもた賃金が上がる。これが経済の好循環である。

今の若い人们は、社会人となつて働き始めてから、まともな賃上げを経験していない。これでは消費が伸びるはずがない。今や若い人们が、経済の好循環を経験すべき時だ。

賃金は市場で決まるという命題は、一面の真理にすぎない。市場に任せておけば万事う

まくいく、という自由放任の時代が終わったことは、すでに100年近く前にケインズが指摘したことである。

私たちの暮らす資本主義経済は、政労使3者の知恵によって支えられるシステムなのである。賃上げの春を歓迎したい。

吉川洋氏 1951年生まれ東大大学院
経済学研究科教授。経済財政諮問會議議員、
社会保障国民會議座長などを歴任。現在、財
政制度等審議会会长。

吉川洋



作品 関根常雄

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

私も大月へ通勤する車窓から、桂川渓谷をはさむ山々の、濃淡さまざまな緑が雨に洗われている鮮やかさを楽しんでいる。

くが うみ
陸も湖もひといろになりてさみだるる
のしづかさを語りあひける 斎藤茂吉

雨にぬれた緑と花と

晩年の歌集「白き山」所載のもの。湖畔の
景色とその静かさを語りあう心の伝わつて
くるような一首である。

夏至を過ぎて、梅雨寒もゆるんできた。梅

雨は、物にかびの生えやすい陰気な季節だが、
雨にぬれた自然の 美しさを味わうには絶好
の時期である。

紅つつじはれて霽れてまたふるこのごろ
の梅雨の日癖をたのしみこもる

太田水穂

わかわかしき青葉の色の雨に濡れて色よ
き見つつ我を忘るも 伊藤左千夫

ちよつとやんだところを庭に出てみると、
また間もなく降りだす。こんな梅雨の晴れ間

も良いものである。

あぢさゐのおもむろにして色移るおほか
たの日数雨に過ぎつれ 吉野秀雄

梅雨ぐもりふかく統けり山かひに昨日も
今日もひとつ河音 中村憲吉

紫陽花あじさいこそ典型的な梅雨の花である。余計
な注釈はいるまい。

憲吉は広島県北端、島根県に近い山峠にある布野村の出身。帰郷して家業の酒造りをしていたころの作であろうか。

拾いつるうす赤らみし梅の実に木の間
ゆきつつ歯をあてにけり 若山牧水

雨あがり草の乱れし庭しゃべより紫蘇しそのにほ
ひの弛みくる覚ゆ 土田耕平

雜草に交じつて庭の片隅に小さな四つ葉のかわいい紫蘇がいくつも芽を出す。雨に恵まれてぐんぐん伸び、においも強くなつてくる。それとともに梅雨明けも近づく。

梅雨のやみ間の濡れた草むらに梅の実が落ちている。拾つて歩きだせば、あたりの木の間から、はらはらと雨の滴がこぼれる。

(89・6・24)

「人民民主独裁」とはなにか

中国の指導部は「四つの原則」（社会主義の道、共産党の指導、人民民主独裁、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想——鄧小平が一九七九年に提唱した）をさかんに強調している。そのうちの人民民主独裁について注釈を加えたい。

その根源はマルクスにある。「資本主義社会と共産主義社会との間には、革命的転化の時期がある。その過渡期の国家はプロレタリアートの革命的独裁である」（「ゴータ綱領批判」）

それを受けたレーニンはいう。「独裁とは

なにものにも制限されない、直接暴力に依拠する権力である」（「独裁の問題の歴史によせて」）

資本主義を打倒したあと、安定した共産主

義社会を樹立するまでの過渡期には、多数者がプロレタリアートの間では民主主義を実行し、少数の敵ブルジョアジーは独裁権力で制圧するという意味だ。中国の表現では「人民民主独裁」である。

この独裁をレーニンは革命直後、一九一八年一月の憲法制定議会で実行した。レーニンの党も賛成した国会選挙で、社会革命党が三百七十議席、共産党百七十五議席、その他のいくつかの小会派に票が分散した。総議席数は七百七、社会革命党の単独内閣、ないし同党主導の連立政権ができるしかるべきであつた。この制憲議会を軍隊で占領し、一方的に解散を宣言して成立したのが共産主義政権である。

プロレタリアの革命的独裁という美名のうちに始められた一握りの権力者の強制的支配の矛盾は、七十年後、共産主義諸国でもおおいからせぬものとなつた。眞の民主化へ

の動きが、ポーランド、ハンガリーを先頭に始まっているところである。

この世界史的潮流逆行して、中国では広範な人民の平和的な民主化要求が、少数の反革命分子にそそのかされた「暴乱」と規定され、軍事力で鎮圧された。この暴挙を「正当化」するためを使われているのが、『人民民主』独裁の原則なのである。

(89・7・1)

フランス革命一百周年とアルシユ・サミットが重ねられ、「人権尊重」が声高く唱えられた。この世界的規模の政治ショーアンの幕が引かれていま、フランス革命とは何であつたか、その現代的意義はどこにあるかを考えてみたい。

フランス革命は、いわゆる「ブルジョア」革命である。ブルジョアとはブル（お城、それから転じて町）の住民、つまり町人、市民という意味だ。

国王、貴族の封建的支配の打倒を宣言した「人および市民の権利宣言」（一七八九・八・二六）は第一条で「人は、自由かつ権利において平等なものとして出生し、生存する」と述べているが、第十七条で「所有権は神聖で不可侵の権利である」と明記していることに

フランス革命とロシア革命

注意したい。封建的権力者の土地・財産領有、暴力による搾取は不当で否定すべきものであるが、新興ブルジョアジーがその才能と勤労によつて正当に獲得した財産は保護されねばならぬ、という意味だ。

この自由・平等思想が一七九三年以降の「大恐怖制」に入ると、革命家たち自身の独裁によつて踏みにじられ、精神の苦悶と流血の慘禍の時代となつた。

その後、私的所有権を基軸として、開花した産業資本主義社会は、革命の理想を裏切つて、富める少数資本家と貧しい多数の労働者との両極分解をもたらした。前者、すなわち、新しい意味での「ブルジョアジーを完全に抑圧し、人間による人間の搾取をなくし……プロレタリアートの独裁を確立」（一九一八年ソ連憲法）しようとして、私的所有権を否定したのがロシア革命であつた。だがその独裁は多数者の間の民主主義を確保するという

建前とは反対に、少数権力者による多数者の抑圧に転落してしまつた。

その後、多くの曲折を経て、資本主義は改良され、共産主義も改革に立ち向かおうとしている。フランス革命後二百年、ようやく、その自由、平等、人権尊重の精神が、世界的に展開はじめたようである。

(89・7・22)

ハリケーン in New York

ランコ岩本

(米国ジャーナリスト)

人間は、常に誰かとコネクトして（繋がつて）いないと「不安」になる生きモノらしい。米東海岸 12 州を襲ったハリケーン・アイリーンのお蔭で、今更の様にこのコトを実感した。

ブルムバーグ New York 市長が早々と非常事態宣言した途端、友人・知人からの電話連絡が頻繁になつた。「停電に備えて懷中電気やローソクを忘れずに!」「水、水!」「食料は十分にあるの?早く買いに行つたら!」「今夜から私のところに泊ま

りにいらつしやい。入院中のローズのボーフフレンドも来るのよ、彼のアパートは海辺だから」(6階の米友人)。

しかしこれらのやり取りは非常事態下では当然のことだろう。「常に誰かとコネクトしていなければ」を実感したのは、スーパーでレジの前の長蛇の列に並んだ時である。並んでいる人達が、異様なほど

chatty (おしゃべり) なのだ。まるで数十年來の知己のごとく、前後左右の人と喋りまくつている感じなのだ。話題は何でもござれ。私が日本人と知ると、「息子の嫁はコリアンで・・・」。「最近の天災は神様からのメッセージに違いない・・・人類はgreed (貪欲) になり過ぎた、のメッセージよ」「家に戻ってきた息子は24歳だけど、未だに何をしたいか解らなくつて・・・親はしんどい!」「日本にこの秋行く予定だ

つたけど、原発の事故で止めにした、残念！」「おお貴女はライターか。私も詩を書くのよ。名前はデビーよ。憶えていてね」（85歳の元気な高齢者で電話番号をくれた）。私はこの人を、新たに会話に加わった人に「この人は『デビー・ザ・ポーエット（詩人）』なのよ」と紹介。デビーさんは、「詩人」と紹介されて嬉しかったのか、途端にもつと元気になつた感じ・・・といつた具合。

携帯で、若者達が間断なく連絡しあい、延々と（何でもないコトを）しゃべることとそつくりなシーンだつた。

ところで私の買い物だが、混雑に閉口して、野菜とアイスクリームだけで終わり。予定などしてもいなかつたアイスクリームを買つてしまつたのは、こんな非常事態と

いうのに、「バーゲン・セール！」のラベルが棚に貼つてあるのが目に入り、普段1個6ドルはする1・66ポンドが何と2個で5ドルだったからだ。時々半ポンド入りを買うので、こんなバカげた値段なら買わねば損という気になつてしまつた。店を出てから、「停電イコール冷凍庫不機能」と思い付いたが、後のまつり。思い付いた対策（「必要は發明の母」の格言通り、頭をひねつて思い付いた）は、氷をじやんじやん作つて冷凍庫1杯にしておけば、3日位の停電でも、アイスクリームは溶けないだろう、というコトでした。

ハリケーン「サンデイ」

11月末米東海岸地帯を直撃したサンディのことは、日本でも大きく報道された模様で、日本の友人知人から「大丈夫でしたか？」と沢山お見舞いのメールが来た。後日日本からやつてきた友人は、先ず「サンディの被害にあわれましたか？」と、最早「ハリケーン」という言葉なしで訊く。

1年前にマンハッタンを脱出して郊外に移動していた私は幸運だった。停電、浸水、断水の憂き目に遭わずにすんだが、友人達の殆どはバツテリーで機能する懐中電灯とラジオが唯一の頼りの生活を数日強制された。NY市住民の4分の1が浸水の憂き目にあり、その90%が停電生活となつたと伝えられる。

「夜、辺りも真っ暗で、外界との連絡も遮断されて、不気味で怖かつた」と友人は言う。

発電機も次々と不機能に

高層ビルや病院は、停電となつた際の為に地下に発電機を備えているが、浸水でそれらが機能しなくなり、患者を暗闇の中担ぎ出すハメとなつた。その患者数、ヨコハマ大学附属病院は230人、ベルヴュー病院は700人といわれる。サンディが猛威を振るう真っ最中に生まれた赤ん坊の名を「サンディ」としようから」と担架の上で微笑む若いママの姿が紙面を飾つたりした。

商魂の逞しい男性は、サンディ到着前にヒュンダイ製発電機70台を購入し、トラックに積んでハイウェーの道端で売りさばいていたという。ちなみに大型は1399ドル、小型は699ドルだつたとか。

Funny Feeling

サンディ到来は海が満潮、しかも高潮となる満月の日だった。

洪水で腰まで水につかうたTVレポーターが、「周りを14センチほどの魚が泳いでいて、変な気分です」と言つてゐるのが可笑しかつた。

ワシントン州で、鮭がハイウェーを泳いで横断し、犬が「ディナーにありついた」と一匹咥えて走り去る写真を見た私は、犬君の為には「良かつたわねえ」という気分。鮭に向かつては、「可哀想に・・・」と、全く複雑な気分を味わつた。



常雄

作品 関根常雄

昭経俳壇

三郎

悟風

如月や寺の書院の松の影きさらぎ

平靜にもつともらしく四月馬鹿

大手門桜が堀を埋めつくし

嘘うそなのか先ず疑つて四月馬鹿

春風ひいきの力士は日馬富士

笠智衆小津安二郎昭和の日

アルプスの峰の近くや復活祭

母の日の母へ孝なすこともなく

父の日の働らく人と遊ぶ人

五月晴富士五湖の水満々と

蜃氣樓の沖に呑まれる大型船

岬より海女の取りよす活料理

出産の子が来てゐるや筍飯

田に畠に神おはします鯉幟

轉りや薺たけ在す枝芸天

駄菓子屋の隣りの銭湯菖蒲の湯

榮螺^{サザエ}やく呼子の浜の海女の店

憲法の護憲改憲記念の日

亡き夫と見し桜子と巡り

京子

抜け径は子供が好きよ犬ふぐり

剣太郎

啓蟄の光集めて滑り台

盲ひたる津軽三味線やませ吹く

威勢よく向ふ鉢巻初鰹

見上ぐれば花その奥に花の山

春風や四肢ふんばつて犬背のび

華^{にら}山^{やま}の反射炉高し初燕

初蝶やころころ笑ふ女学生

夏雲雀挽曳競馬の地響きに

風薰る追悼ミサの協会に

麦秋やオリエント急行停車駅

下萌の色得つつあり草千里

津軽富士めざし泳ぐや鯉幟

湿地帶白むらさきのカキツバタ

H・ドッペル
フェルト

富貴男

新緑の光を避けて顔隠す

里山を高く泳ぐや鯉のぼり

畠荒れて薺の花の目立ちけり

紫と白のあやめに小雨かな

夜桜や炎とりまく五重の塔

川面には桜のさざなみ笹小舟

大仏殿出でてほんのり花の月

みどり萌ゆうすむらさきの桐の花

如月の雲の高きや興福寺

森林を抜けて野畠にひばり啼く

しおび逢ふ八十八夜の雨もよひ

富士山の雪溶け水の流れ出づ

緋牡丹の花のくづれや計報来る

常緑樹新芽萌へ立つ昼夜がり

ほたる舞うこの小川辺の宵の闇

長谷川

春雨や記憶に常に浮かぶ女

どんぐり

春炬燵戻して今日も寺泊り

散り急ぐ桜吹雪に立つ墓標

柿若葉京の二の坂雨の坂

指きりは柿の若葉の茶店前

トロツコや黒部の夏も動き出し

山人

乗降者なき駅頭の白もくれん

麦笛や円き夕日の崩れゆき

白寿なり森会長に新茶注ぎ

無人駅止まらず通過や花列車
夜桜や剣菱飲みつ留守居の身

何氣なく考へごとする端居かな
うつせみのいのちいつこをまよへる

菜の花や観音堂に黄の迫る
房総は花の盛りよ山に沿ひ

たんぽぽの花をかざして登校児

音たてて流るる久慈川月おぼろ

水引けば田にしの動く目の黒き

麦秋や觀音堂に分け入りて

麦笛や円き夕日の崩れゆき

白寿なり森会長に新茶注ぎ

桜前線、只今定着中

どこもかしこも花の便りである。関東地方でも、特に身近な東京は昨日、今日と花が満開である。オフィスまでの往路、復路は随所で花見が楽しめて、この時期は気持ちが自然と浮き足立つてくる。自宅から東横線、地下鉄日比谷線を使って通勤しているが、特に中目黒駅でたくさんのお花見客が乗降し、夕方のホームは花見を楽しむ人たちで身動きが取れないありさまである。有名な目黒川の川べりに咲く800本の桜の木で、約四キロにわたって花のトンネルが作られている。豪華絢爛の花舞台である。

地下鉄に潜つて銀座駅で降りて地上に出ると、数寄屋橋交差点にも桜が咲いている。5、6本の木だが、簡素な趣きでそれなりに風情があつて楽しめるのが、またなんと

も床しい気がしてくる。プランタンを過ぎてオフィスの方に向かつてゆくと、行く手の先にも桜が咲いている。こんなところにも桜の木があつたかと思うくらいだが、何となく質素な趣きである。桜の花は、時と所によつて、それなりに味わいがあつて楽しめるのが良い。今のところ花弁は一枚も散つてこないところが、落ちつた気分になつて頼もしく華やいだ花を満喫することが出来る。この先の千鳥ヶ淵の桜もみごとだし、その先に行つて上野や、谷中の桜もいいし、下町は隅田川の堤に咲く桜も見事だし、墨東の地に向かつていくのも興味は尽きない。花の盛りは短く、ここ一両日が満開の花見時、それからは花吹雪となつて散つて行く。

拙宅にも樹齢50年ほどの桜が咲いている。直径約30センチ余、幹回り1メートルほどの樹で品種は優雅な染井吉野である。

昔から、さくら伐る馬鹿、うめ伐らぬばかと云うが、無頓着で毎年のこと、植木屋を入れるときに、普段は日陰にならないよう、大胆に枝を払っているが、幸いなことに、とても元気がいい。幹の太い割には枝ぶりは短いが、その分花に養分が行つて色合いと云い、花びらと云い鮮明でふっくらとして、名状しがたいほどに典雅な趣きである。そのせいか花がぽんぼりのように丸く固まつて咲いているようにも思える。

実に綺麗である。昨日今日と月の節をまたいで満開である。妻が二階のベランダから呼ぶ声がした。行つてみると、ベランダから見る花の広がりが同じ目線にあるので、まるで花の小舟に乗つて揺らいでいるような感じである。見る場所によつて味わい方も随分と違つてくるので、いろいろな楽しみがある。庭に突き出た濡れ縁から見上げた時は、花の枝の合間に見た月が、ほんの

りとかすんでいるように見えて、情緒満点、春霞におぼろ月を眺めることが出来る。真下から見上げると、花に積もつた番傘をさしているようだ。ほかに深紅で大輪の椿も咲いているし、黄色い山吹もこの時期になると咲いている。花かいどうも細かな薄桃色の提灯をぶる下げて桜に先駆けて満開となつていて。あでやかである。紫に花弁を広げる木蓮も咲きだすころである。白木蓮はもうすでに咲いているらしい。もうしばらくすると濃紫のあやめが咲くはずである。すきつと伸びた茎の先に、固く紫がかつたつぼみをつけてきているからだ。

庭畠には菜の花が一面に咲き始めて、甘酸っぱい香りを一面にはなつていて、何となく人恋しくなる。菜の花畠に入り日うすれ・・・・と子供の声が聞こえてくる。小学生時代によく歌つた歌である。今の小さい子供たちも、素直に歌つている光景で

もあるから、望郷の念が湧いてとても懐かしく聞く名曲である。蕪村の一句を思い出した。「菜の花や月は東に日は西に」。そのとおりの光景がこのころに現実として鑑賞できるから不思議である。復活祭の礼拝の時には、菜の花を献花しようかな。「十字架に置く菜の花や復活祭」。季語が重なつていて勿体ない気がするが、しかしこれでもいいだろう。復活祭は俳句の季語になつていて。復活祭が4月の何日かと云うことは、定まっていない。新聞のコラムで知つたが、立春のあとの満月の次の最初の日曜日が、復活祭に当たるということである。

花屋さんの店頭には季節を忘れられてしまふように、沢山のきれいな花々が一年を通じていつも置かれている。しかしこの時期、季節にあつて咲く花は、神様の摂理に従つておのずと限られて花を咲かせていて、精いっぱいに自分を着飾つているところが

素敵である。拙宅の庭で数え上げられる花の数々だが、それぞれに誇らしく、美しさを競い合つてゐるようで、樹や草花の大小に限らず初々しさ、可愛らしがみんなに感じられる。

庭畠では3月半ばを過ぎたころから、のどかな日が俄かにやつてきて、庭畠の野菜類がみずみずしい青さにかがやき、すくすくと伸びてきた。そこで私と妻はこのところ、毎朝青菜の収穫に追われている。小松菜、大根、ホウレンソウ、春菊と云つた青菜が一齊に育ち始め、食べきれないでいる。蕗も、薹の収穫の後に、やわらかい葉を広げて芽吹き始めた。時間があると、こゝには、隣近所の奥方が旦那さんを出勤送つた後に、楽しく立ち話をしたりしてゐる。そうした時を見計らつて、摘んだばかりの

新鮮な菜つ葉を提供しているのである。取り立ての野菜のおいしさを味わつてもらつているが、みんなもろ手を上げて喜んでいる。

見上げると染井吉野の桜がきれいに咲いている。桜の下で、勢いを増して大きくなつた青菜を摘むのもなんと楽しいことだらうか。春の盛りを満喫して、このところ収穫に励んでいる。

昨年の暮れに種をまいて覆いをかけて育ててくれたホウレンソウは、園芸の師匠たる三井さんの手になるもので、その手法は完璧である。種をまく前に石灰をまいて土と混ぜ、十日間ほどねかせておいた。温かくなつてきたので、最近になつて覆いを取り払つた。一センチほどの大きさから一向に大きくならなかつたが、ここにきてみると育つて大きくなり、見るからに美味しそうな葉っぱに成長してきている。穏やかに続いてきた、ここ数日間の陽気の変化

のためである。自然の生き物は全て、陽気に対しても敏感である。 四月一日

若い時に横浜に家を建てようと思つて取得した土地が山手にある。横浜の丘陵地帯のたたずまいの景色を存分に楽しむことが出来る、風光明媚の地である。港の見える丘公園と、広大な横浜森林公園のちょうど中間に位置するところである。近くに柏葉公園があつて桜の時期は絵のようにきれいな地域である。普請しようと思つていた土地だが、東京通勤にはあまりにも遠く、時間がかかりすぎると思つたので設計図まで作つていながら断念した。その頃ちょうど世田谷の等々力に恰好な住まいが見つかつたので、そこに変更した。俳句の師匠が住んでいただけあって、広く閑静な土地に、落ち着いた趣の平屋だが、土地が150坪ほどあつて、小さな子供たちを育てる環境

は抜群であった。田園生活に近い住み心地満点の気分を堪能することが出来たが、俳人が好んで手入れしていた風雅な庭は、その後に飼つた三十羽ほどの鶏が、放し飼いにしていたら、沢山植わっていたきれいな草花をみんな食い荒らしてしまった。その後は仙人みたいな生活を自由奔放に楽しんだのである。おふくろが浅草からやってくると、まるで軽井沢にきているようだと、樹木に囲まれて澄んだ空気までが美味しいと喜んでくれたものである。

そんなわけで、横浜に買った土地は使わずじまいとなつて、その後は駐車場にして収益を上げてきている。約四十八台の車が駐車している。横浜技研の窪田社長にはその時以来世話になつてきて、駐車場の造成にも大変世話になつてきているが、以来年月の経過もあつて端の隅々に雑草が生えるようになつてきた。人工を頼んで清掃する

までもないので、時期が来ると運動を兼ねて雑草を探りに行つてあとをきれいにしてきている。いつも近所の三井さんの手を煩わせて行つたりして、帰りには森林公园のレストラン・ドルフィンに寄つたり、元町を通つて中華街に寄つたりして食事をするのも楽しみに仕事をしている。

今日は復活祭である。キリストは十字架にかけられて、死にて葬られたが、三日目にして甦り、人の罪をあがなうために再び生きてこられたことを喜び合う日である。

教会に行って十時半からの礼拝に臨み、キリストの復活を感謝して祈りをささげてきた。ヨハネの福音書から紐解いて、キリストの劇的な復活の様子を説いていく場面だが、真に迫る課題にふさわしく、静かに聞いていた。教会活動も今日から新年度に入り、福音宣教に臨んで貧しい人々、恵まれない人々、虐げられた人々、病に苦しむ人々

を救済するべく、地道で継続的活動をしていかなければならない。玉川神の教会でもこの日からバートン牧師に代わって、藤原智子牧師が説教を行つた。以前から副牧師として説教を行つてきているので親しまれきっているが、新年度を迎えてだから、心機一転の心構えを以て臨んでいたのである。復活祭にふさわしい、いうなれば新人事での発足と云うことがいえる。礼拝が終わつた後はいつものように親しい信徒たちが集まつて、お菓子を添えてお茶席が始まつた。自由な会話を通じて、癒しと親睦を深める時間である。

親睦団欒の席が終わつてから、ご婦人たちは聖書研究の時間で3時過ぎまでの予定が入つてゐるので、殿方は御免蒙ることにして、私も12時過ぎに帰宅した。殿方と云つてもこの日は内科医の大武先生と私だけであつた。あと十人ばかりのご婦人の仲

間入りをして、一緒に談笑して楽しんでいたのである。帰宅後は、やおらスーツを着替えて、横浜の駐車場に車を飛ばしていくことにした。若干の身支度を整え、除草剤だけでも持つて一路横浜に向かつた。第三京浜を快調に飛ばしに二十分足らずで横浜市街についた。山手の住宅地までは十分足らずである。途中桜の見ごろを迎えたところが道行きの随所に見られて、気楽なドライブ気分である。現地に着いたら工事屋に依頼しておいた車の区分のラインが、まっ白に引かれてきれいに整備されていた。検証に行つたが何ら手を下す必要もなく、ちよつとした草むしりや除草剤の散布などに労働時間を費やしたあと、昼食をとりに近くのレストラン・ドルフィンに行つた。時計を見たら二時半であつた。

ドルフィンのルーム一杯に張つた大ガラスから見た周辺の景色は、エキゾチックで

甘い雰囲気である。東京とは違つた異国情緒みたいな味わいが漂つていて、横浜まで来たかいがあつたといつも思うのである。

年齢的時間が充分にあれば、横浜に住んでみるのも一考にあたえすると思ったのである。横浜に住んでみると云つても広いから、指定する場所はやはり元町に近い港の見える丘公園か、或いは鷺山、柏葉あたりの昔からの高級住宅地かもしれない。文明開化の音がするではないが、洋館生活になじんだ場所である。江戸の浅草猿若町で生まれ育つた三男坊が、そんなスマートな考え方を持つのは、女房の実家が横浜であり、山手界隈で生まれ育つた因縁かもしれない。それで近代都市の横浜を知るようになつた。

時代を通じて横浜を題材にして歌になつた名曲が沢山あつて、情緒的な哀愁を帶びた曲が、思い出と重なつてくることは、多くの人が経験するところである。ひよいとし

たことから、今日のイースターは、教会の礼拝から横浜までの小旅行に切り替えて、夕方帰路についた。そして教会で婦人たちの聖書研究の時間を催して終えた女房を迎えて教会まで直行し、帰宅したのである。時に夕方の四時であつた。余力のあつた私は、それからまた尾山台ハツピーロードに散策に出かけたのである。途中、散り始めた桜を惜しむ目的もあつたから。

横浜の土地検証にひとり来てのちドルフィンにてステーキを食ぶ

横浜の異国情緒に富む地にてここに住むのも面白かりき

ドルフィンの窓に眺むる横浜の港の淡き霧にかかるる

余力と云えば、最近の執筆では経済、政治と云つた題目から少し距離を置いて事態

を静観しているが、それだけに論じることが国内外を含めて沢山あって、深刻の度合

題は複雑であればこそ、そこから距離を置いてみるのも勉強だと思っている。

いを薄々感じてきているので、うかつに取り上げて云々することをはばかっているくらいは否定しえない。距離を置いて事態を冷静に見るきっかけにもなつて、決して怠けているわけでもなく、静観がむしろ勉強になつてくる気がしている。たとえば好景気に沸く上場企業の実態とか、日銀の異次元金融緩和政策とか、三年目に入つたアベノミクスの展望とか、辺野古基地への移設問題、中国主導のアジアインフラ投資銀行の問題とか、イランの核問題、イスラム国とシリア、ロシアの国内経済の動向・・・といった問題山積である。ちよつと考えただけでも枚挙にいとまがないが、いずれも最近に起きているものであり、重要な問題を内包していることが分かる。そうした問

題の分野に目を転じて、主宰している短歌同人誌・淵の編集、発行について構想を練つたりしていると、春夏秋冬、花鳥風月に目を轉じて、限りない情念を燃やすことが出来るというものである。これぞ人間性の回復を呼び掛けるものであり、おのずから人間贊歌を表わし、無知残虐なる人間どもの覺醒をうながすものである。淵も短歌同人誌としては名門であり、決しておろそかにできない。ただ明鏡止水に心を浄化させ、又ペンを執つて、思うが儘に和歌を詠み綴つていきたいと思うのである。今日、日本印刷から遅れてしまつたが、淵・209号が完成して届けられたが、同人並びに関係者には一両日中に届く予定である。編集と発行の責任を果せたが、又次の準備に取り

掛かることになつて、慌ただしさからは抜け出せない。しかし、仕事を成し遂げた喜びは、忙中の閑、一服の清涼剤である。

さくら咲く華やぐ日にそ喜びの復活祭の歌をうたひぬ

降りしきる春の小雨に濡れそぼる花の咲く
日の復活祭なり

復活の意義を示して礼拝の主のあがなひのいともかしこし

もろびとのござりて祝うふキリストの復活に寄せよろこびあへり

痛ましき受難の日こそめぐりきて十字架の主にあがなひのあれ

万物によみがえる日の訪れて光あふれし天
つちの間に

春立ちて満月の後の日曜に復活祭をいわひ
けるかな

キリストの復活により我らみな愛とひかりの道をゆくかな

思へかし戦後七十年の來し方を花とあらし
の世をわたりきて

この國の榮えは平和と民主主義そのいしづ
えの元あればこそ

降り注ぐ焼夷弾のあめあられB29から落
とし行くもの

無差別に人を殺めて顧みず今なほ続く人の
あさまし

千万のしかばねの魂さまよひて焦土の原に
迷ひあがけり

黒焦げの遺体のあまた転がりて燻ぶり居り
し焦土のはてに

馬鹿ヤロー相手定めず叫びつつ弾に当たり
て死ぬる兵士よ

飢餓の死を前に兵士は敵陣へ武器を持たず
に突つ込みてゆく

丸腰の兵士はひとり意を決しおのれを武器に敵陣に撃つ

洞窟の穴より出でて木刀をかざす兵士にまどうふ米兵

雨あられうち来る敵の銃弾に身は粉々に見る影もなし

万歳と意味なく叫びむなしくも聞こえし兵のあはれ果てもしも

激戦にふんどし一丁の勇氣ある日本兵の白旗を振る

塹壕に潜む兵士に敵方の火炎放射の果ての玉砕

戦争の慘禍をのちに知らしめて二度と愚行を世にゆるすまじ

忘れまじ戦火の下を駆け抜けて命からがら逃げゆきし夜を

ててははとらからの手を取り合ひてたたかひの火をくぐりにげしを

四月六日

短歌同人誌・淵でお互いに意志の交信を交わしている名古屋在住の敬愛する杉村さんから、昨日の夜に電話をいただいた。この日には仕事を早めに切り上げて帰宅したので、幸い杉村さんと話を交わすことが出来た。杉村大兄は先週の日曜日の朝早く名古屋を発つて、東名高速を友人の車に乗つて御殿場に降りてから、私が利用している富士ビューマンションに行かれて、そこから快晴に恵まれた絶景の富士山をご覧になつたそうである。たまたま私がそのフジビューマンションの管理組合の理事長を務めて、早や15年以上になる。そんなことから滞在したりしたときの様子を書いては昭和経済に掲載することが多いので、杉村さんはそうしたエッセイを読んでくださつてゐる。それにしても、地理に詳しく冒險心に富む杉村さんにしてできることに違いないと思つた。普段でも急に言われたりする

と、とてもではないが地理に疎いひとには
フジビューマンションにたどり着くことは
難しいことと思うし、億劫なことに違ひな
い。それを難なくやり遂げてしまう杉村さ
んに脱帽である。お話を聞くと、さらにそ
の足で東京に向かい、用賀料金所で下車さ
れた。そこから拙宅付近の等々力に来られ
たそうである。私は常日頃自分の住まいの
ことや生活について触れて書くことが多い
ので、実証主義の先輩にしてみれば、どん
な環境に住んでいるのかを見聞する興味が
わいてきたに違いない。驚くべき好奇心と
行動的な様子に、私は血氣盛んな青年の意
気と情熱に似たものを感じて、その旺盛な
貴い姿勢に敬服してしまった。私が時折自
宅周辺のことについていろいろと、こまご
まと書いているので、杉村さんの脳裏には
そうしたことが確と刻まれていると見え、
その豊かな感性と、観察力は美妙に加味さ

れて、私に有利に反映されてきている。小
生にとつても初夏をまちかに控えた今季
節が、とてもまぶしく麗しく見えてくるの
でありがたく思つてゐる。

日曜日には午前10時半から、近くの玉
川神の教会の日曜礼拝に出ていて、終わる
のは12時少し前だが、そのあと知り合い
の人たちと歓談したり、近くの自由が丘に
出て昼食をとつたりすると、通常は2時ご
ろには帰宅することになっている。一週間
の間で、気分的に休暇をとれて精神的にも
清涼感を味わえる時間帯である。杉村さん
がせつかく名古屋から見えていらしている
ことが分かれば、万象繰り上げてお待ちす
るところであつた。是非とも、お目にかか
りたかった。庭に桜の木のあることも、今
紫の木蓮の花が咲いていることも目にとめ
て行かれたそうである。庭に入つてもらえ
れば、ホウレンソウがこんもりと、みずみ

ずしく育つてゐるのが分かるし、お土産にホウレンソウを沢山抜いて持つていただきたかった。今家でも毎朝ホウレンソウを抜いてゆでて食べているが、柔らかく、素晴らしい食感であり、味付けに鰹節をのせてまことに美味である。聖護院大根も昨年の暮れに撒いたのが冬を越して、弱々しかつた葉っぱが青々と育つてきている。聖護院の大根より、専ら葉っぱを刻んで味付けに炒めておいしく食べている。普通の大根の葉っぱだとこうはいかないし、これもまた違つた絶妙な味と触感である。裏に植えたさやいんげんも万作である。朝から日当たりが良いので鉢なりになつてきた。

拙宅でとれた菜っぱをお土産に差し上げるのも野暮つたい感じだが、虎屋の羊かんやヨツクモツクよりはましかもしれない。そんなことを勝手に解釈していく、実現したら杉村さんもさぞかし迷惑なことだろう

と思つたりしていた。蕗の葉っぱもいつぱい生えている。若いうちなので柔らかく、そのまま茹でてから細かく刻んで味をつけ食している。こうしたもののはどこにも平凡にあるものだが、農薬を使わず、新鮮な時間が第一の長所である。しかも自分で時間かけて育てたものなので、はばかりながら自信を以てお勧めすることが出来る。杉村さんに差し上げもしないで、こんなことを自慢して話すのもどうかと思うが、その機会を逸して残念な気がしている。

それはそれとして、折角上京されたのだから、家におあがりいただいて、お茶の衣服でも上がつていただきゆつくりしてもらいたいと心から願つたのである。もし間に合えば、以前紹介くださつた近くに住む竹村さん親子も呼んでみたいと思つて。竹村さん親子は同じ等々力に住んでいるが、目黒通りを渡つた玉川神社の裏手にあたる閑

静なところに住んでいる。母と娘の二人暮らしで、先だつて拙宅にあいさつに見えた。明るい人柄の奥さんである。奥さんの旦那さんが杉村さんと知り合つていたそうである。旦那さんは昨年亡くなられたとのこと。実家が奈良なので、帰つた時には奈良のお寺と仏像めぐりを楽しんでくるそうである。そう言いながらぜひ召し上がつてほしいと、大粒の奈良のいちごを持ってきて下さつた。今回は逸してしまつたが、杉村大兄がお見えになつた時は、竹村さんにも来ていただいてゆつくりと歓談したいものである。杉村大先輩の造形深い、会津人への和歌と、奈良のお寺や、仏像や、風景を交えた写真の数々の話を中心に、きつと話は尽きない思いだが、心の内をお互いに話し合うのも楽しいことである。まだ一度もお目にかかつていないのに、何だか旧知の間柄のように付き合つてているもの、摩訶不思議な気が

して、これこそ見えない糸に括り寄せられたもので、神様から与えられたご縁だと思つてゐる。いつの日かお互に会つて、人ととなりを確認して、と云うよりはお客様と改めて挨拶を交わし、手前の人相なども認めていただいて、満ち足りた時間に過ぎて素晴らしい人生のひとこまを演じてみたいものだと願つてゐる。それにしても今年の気候は気まぐれなところがあつて惑わされつたが、先日、杉村先輩が上京された日が、幸いにも快晴に恵まれていた日でよかつたと、胸をなでおろしているところである。昨夜電話をいただいたことで、豊かな感受性を持ち、好奇心、冒険心旺盛な杉村少年が無事帰宅されたことの証明になり、遅ればせながら安堵したのである。

私のパソコンが時折調子が悪くなつて、折角打ち込んだ私のリポートがそのまま載らざにいつの間にか消去されてしまふ事態が起きて、いささか困惑気味に過ぎた数日だつた。その都度機械を設置してくれた業者に問い合わせて直してもらつたりしているが、機械の精度を信頼して頼りすぎても如何なものかなと思う。慣れとは恐ろしいもので、利便性がひとたび身についてしまふと、それを切り離すことが出来なくなつてしまい、当たり前に思つてしまふことである。薬物につかりきつて、抜け出せないのと同じである。次第に投薬する薬物がきかなくなつて、ますます強い薬を求めて行くようになる。やがて薬害に侵されて半身不随となつていく過程は、麻薬と同じである。科学の便利性に依存した生活、進歩した現代社会の重大な欠点である。

文章について私は、ひらめきで書くことをもっぱら信条としているので、繰り返しが出来ないのである。ひらめきで書くことが出来るが、最近はひらめきで打つ、と云う習慣がついてしまつて反省しているが、決して手抜きをしているわけではない。書くと打つの違いである。急いでいる時などは、パソコンの便利性が優先してしまつて、つい打ち込む手法をとつてしまふのである。原稿を執筆してから打ち込めばいいのだが、それを省略していきなり打ち込む結果が招く事態なのである。急がばまわれという戒めがあるが、しまつたと思うときいつもその言葉が浮かんでくる。別の欄に打ち込んでから、それを移し替えるといふ手法を教わつたが、なかなか覚えきれないでいる。ただし同人短歌誌の淵に乗せる和歌については、専ら筆記したのちに打

つ癖があつて、無難に古典的な手法を選んでいる。

一つは、中国が主導するアジアインフラ投資銀行である。

このホームページの作成にちなみ、最近大きな関心を以て見ている社会事情、世界情勢があつて、先日それを懸命になつて考

えながら打ち込んでいた。そして従来通りそれを保存して構築のクリックを押し、これで完了と思っていたが、それだけではだめなことが分かつた。新たに更新のクリックをする必要があつた。その前に機会の調

子が悪かつたので、調べてもらつたら故障していたのが分かつて、部品を交換しても

らつた。完了するまでに10日ほど要してしまつた。万全を期して綴つたリポートな

ので、簡単な操作ミスで消去されてしまつたことに気づいて、がつかりしたのである。

秀作・春の靈峰、

富士山の写真が出来た物語

三つは、高浜原発再稼働差し止めの、福井地裁の仮処分の決定である。
いずれも内外に時代を搖るがす内容のものである。

四月一九日

そこで気になつていた社会事情、世界情勢とは三つあつた。

四月一七の日早朝四時、名古屋の自宅を出て一路東京に向けて発つた写真家の杉村浩さんのことについて、先に綴つた文章で述べて統報を書くつもりでいたところ、三日前の二二日に杉村さんからレターパック

ライトがオフィスに届いた。さっそく開けてみると、和紙に流すように書かれた書状があつた。毛筆の墨跡が美しかつた。拝読した後中身を見ると、当日、撮つた富士山の一枚の写真に、一瞬目がくらむほどの衝撃を受けた。そしてようやく載せられてくる私の歌に目を移したのである。題字に、バーナード・バートン牧師を送る歌と書かれてあつた。教会で私が詠んだ約八十首ばかりの中から杉村さんが選んで、御自分が取つたこの日の富士山の写真に重ねて載せて下さつたのである。

作者の会心の一作を届けていただいたわけで、心から感謝と感動を覚えずにはいらねなかつた。この日はちょうど復活祭が先週済ませられたばかりで、日曜礼拝に出席している日でもあつた。目も覚めるような快晴の日であったので、温かさに全ての春の草花も一斉に花を咲かせて素晴らしい春の記

憶にとどめられている。杉村先輩は、神が用意した快晴の日を一路東京に走つた後、途中御殿場インターを下り、箱根に向かつて乙女峠を、途中から長尾峠に向かう伊豆スカイラインを走つて、私が持つてゐる富士ビューマンションについた。そこで秀麗、春の空にかがやく富士山を撮影されたのである。その一枚が、送つて下さつて今私が見ている写真である。杉村さんは少年のようにはやる心を抑えつつ、この秀作を私に送つて下さつたのである。なんとお礼を申し上げていいかわからないでいる。

それにしても春の天気の変わりやすい時期に、かくも晴れ渡つた紺碧の空は、今までも見ることはできなかつたが、たまたま思い立つて出かけた杉村さんは、何と幸運に恵まれた方だろうと思つてゐる。富士山を撮る作者に、神は最高の条件を用意してくださり、作者はそれを感謝し、感動を込

めてとつた写真である。そのような富士の澄み切った容姿を今まであまり経験したことがないので、名状しがたい感興に満つてゐるのである。作者としても傑作の中の一枚として、完璧なものであり、以て記念すべきものに違いない。神々しく輝く富士やまの、その瞬間をとらえた作品は、すべては神の恵みとしか云いようがない。神のみ手が、作者に乗り移つて撮つたようなものである。そこから又東名高速に入つて東京に向かつた先輩は、用賀インターで降りて、拙宅の等々力付近を廻つて、おそらく近くの友人の竹村さんの家の辺りを確かめて行かれたであろう。別に拙宅を写した写真と、尾山台駅打近の写真も添えてあつて、まるで杉村先輩が思い出の地を訪ねていくような気持でいることがうかがえたのである。

温かく、細やかな心情をありがたく思つてゐる。親愛を込めて綴られた書状を手にし

て、杉村少年が、この日の富士山を撮影した名作を手にして、無事名古屋に着かれていることを安堵して、つつがなく帰宅されたことを神に感謝したのである。

春の富士山

富士やまを撮る仁兄の秀作に神の恵みに在りし日の空

春の日に知己の車のあないにて尾張ゆ駿河の国に走り来

富士やまを撮る会心の写真なり不二の威嚴の真に迫り来

春の日の澄む青空に富士山の真白き雪の光る朝かな

感興のおもむくままに眺めしもこの写真こそ比類なきなり

富士山を撮る一枚の写真にて快心作とうなづきにけり

春の日の真白き富士の嶺高くあたりに光放つまほろば

幾そたび訪ねて眺む箱根路の富士の姿の四季おりおりに

山並にひときは高くきはだちて遙かに望む富士の山かげ

おおいなる富士山をとる写真家の今亡き妻を慕ふ思ひに

富士山を撮る写真家の意氣燃えて思ひを示し類ひなきなり

朝まだき尾張を発ちて東名を走る八十路の猛き雄のこら

素晴らしき春の日和の空に立つ高嶺に光る富士の白ゆき

うららかな春の日和の青空に雪をいただき光る不二山

晴れ渡る春の駿河の岬より撮る富士やまの雪の嶺かな

仁兄の傑作なりし富士やまの春にかがやく白妙の雪

大兄が尾張よりたち快晴の日に妙にとる春の富士かな

あたたかき想いと人となりしかな杉村兄の春のたよりに

妻とみる杉村兄が春に撮るかがやく富士の永久に写りて

富士やまの濃あゐの空に紺青のすそ野の妙に仰ぐ白雪

畏敬する杉村氏の撮る秀作に見とれて触れし富士の麗峰

完璧にとらへし富士の一瞬の美と存在の神體にせまる

紺碧の空に一点の曇りなく誇りてそびゆ富士の秀峰

神さぶる富士の高嶺の白雪を真なかに仰ぐ

杉村先輩

おおいなりいまだまみえぬ仁兄の富士の姿
にかさねあはせり

あほやかな濃藍もすがし富士やまの高嶺に
光る雪をいだきて

富士山の眺めもけだし天下一その前に立つ
たけき男のこと

生涯の思いも深き秀作となる大兄の富士に
立つ影

少年の如き氣概を見習いて新しき道拓き進
まん

亡き妻の姿を胸にあらためて峠に富士をあ
ほぐ春の日

白妙の雪をいただき富士やまのそびへて春
の榮ゆまほろま

よき妻と富士を眺むる峠より熱き思ひに在
りし日を思ふ

在りし日の妻と出で立ち共に見し妙なる富

士の今しあほぎて

汝が妹と富士を背に撮る仁兄の熱きおもひ
に浸りけるかも

富士やま贊歌

わが友が撮りし写真の一枚に諸々に湧く富
士のほめうた

富士山の四季折々に風致得て刻一刻に容姿
変え行く

富士山の濃あいの色に輝きて高嶺の雪のひ
かり放てり

比類なき富士の姿のおこそかに吾の心を清
め尽くせり

大兄の写真に触れて富士やまをたたへる歌
をあまた作れり

春盛る駿河の国の豊かさの水を抱きて聳ゆ
富士やま

壯麗な富士の写真の一枚に作者のたぎる思
ひ如何にも

富士やまの瞬時をとらふ一枚の写真に審美
の極意示せり

富士やまの裾のじねんの恵み得て実り豊け
き大地つづけり

トンネルを抜けて峠の茶屋に立ち眼下一帯
の箱根收めん

山なみの茶屋の高みにひとり立ち天地の間
にそさまよひにけり

箱根路をのぼり峠ゆ思ひきり飛びて天地の
間をさまよはん

限りなく力いっぱい声を出し富士に向かひ
て叫ぶわれなり

富士山の雲と遊べる和やかに時に雄々しく
雲とあらそふ

澄みわたる富士の高嶺をめざしゆく鳥の濃
あゐの色に消えゆく

藍色の濃き色合ひの富士の空それを濃藍と
云ひていみじき

母ときて長尾峠に立ちてみる夏の青ざる山
なみの果て

母のため求めし富士のやかたにて仰ぐ麗峰
の目にもまばゆき

湧く雲のそれぞれに佳し富士山の姿に合ひ
て心ありけり

湧く雲の形すぐれて趣きの山に合い添い別
れ去るなり
あなかしこ沸き立つ雲の富士やまに自在に
舞ひて樂しかりけり

富士山にちなみあまたの物がたり思ひ出ふ
かく我にありしも
明け初めに輝く富士をあほぎみて若やぐ大
志の我に湧きいづ

富士山の貴きすがたの厳かに触れて再び大志みなぎる

ただひとり長尾峠の茶屋にたち天下の箱根を一望に見ん

趣きのゆるく素早く変わるさま親しくながめ富士と暮らす日

思ひ立ち箱根マンションに妻ときて真なかに富士をあほぎ見るかな

芦ノ湖に舟を浮かべて富士やまの茜の空にほむら立つ身ゆ

芦ノ湖にあやかに映る富士の嶺の音なく暮るる夕べなりけり

おごそかにとはに聳ゆる富士やまのこのまほろばのしるしなりけり

菜の花のゆるる煙に聳え立つ富士の裾野に夕日おちゆく

登らぬも、二度登るのも何とやらされば遠き眺む富士やま

芦ノ湖にあやなし映る不二の嶺のしじまに暮るる夕焼けあとかな

うみの面にさざなむ不二の夕焼雲夕べのどかに暮るる頃かな

明け初めの富士を仰ぎて夕焼けのとばりに暮るるまでを過ごさん

うぐひすの鳴きつるあした明け初めの富士のすそのに霧わたりゆく

霧さめの降る奥山の道行きに繰り返し聞く郭公の声

真・善・美 極地をしめし比類なき今富士山を前にして立つ

郭公の鳴きつる森の深みより水のながるる音の聞こへ来

せせらぎのあそけき音の聞こへきて富士のすそのに眠る山里

みづうみを五ついだきて富士やまの裾野に多く水の湧きいづ

秀でたる富士の姿を眺めいてこの眞実の永

四年前の大震災

久にあらまし

被災で亡くなられた人々の、み靈の安か

ゆくも悲しかりけり

らんことを祈ります。

夕映えの輝きそむる頃あひのほむらとなり

おおなゐと巨大津波の東北の地を襲いきて

て暮るる里かな

被害甚大に

夕立の止みて雲間に入り日さし茜のそらに

2時46分、太平洋三陸沖を震源とするマ

移りゆく間よ

ちようど4年前の今日、3月11日午後

あほやかな濃あゐの色の富士やまの高嶺の

雪もあほく光れり

山裾の林にかかる狭霧消へまさおの空に仰

ぐ富士かな

何気なく闇夜にうかぶ富士らしき姿のそら

グニチュード9、2の巨大地震が発生し、

にあればなほ佳し

その後に起きた高さ15メートルを越す巨

青き夜の空を照らして名月のほのかに浮か

大津波は、東北地方の沿岸一帯を襲つた。

ぶ富士の影かな

死者15、884名、行方不明2、633

名を出す大災害となつてしまつた。加えて東京電力の福島第一原発事故の発生で、大量の放射能拡散で、国土は未曾有の大災害を伴つて現在に生きしく及んでいる。悲惨の歴史にいまだにうごめいている日本であ

四月二五日

る。会既に4年が経過したが当時あつた避難民47万人は、現在23万人までに減つたものの、今なお多くの人たちが苦渋の避難生活を余儀なくされている。懸命の復興

計画を遂行中だが、ここにきて鉄道と道路の復旧は先の常磐高速道路の開通で、全線開通をはたした。しかし被災地の人たちにとっては、65%の人たちが、復興を果たしたという実感を抱いていないという状況である。安倍さんは、東北被災地の復興5か年計画の終わる来年も、また引き続き5兆円規模の予算を組んで、復興5か年計画を延長すると云つてゐる。確實な、充実した復興計画を実現するまで、官民一体となつて努力しなければならない。

銀座の繁華街、首都高速道路が走る下は、銀座4丁目の数寄屋橋から銀座一丁目までの間にかけて統一、イング・I、イング・II、イング・IIIと横に走る道路で区分され、

それぞれに綺麗な商店が沢山出店している。一階は華やかに、女性用装飾品などのブティック専門店である。二階は個性豊かな飲食街となつてゐる。

大震災の日、私は遅い昼食をとつて、イング I にある喫茶店に入つて軽食をとりながらコーヒーをのんでいた。その時である。軽い揺れを感じて地震だなと思つていたが、何となくその揺れは止みそうにない。揺れが、次第にゆっくりとした波長に代わつていくよう感じた。かなり長く続きそうな気配に、次第に大きい地震だなあと感知するようになつた。ゆっくりと左右に振れる、柱時計の長い振り子を見ているように思つた。堅牢な首都高速道路がかかる高速道路の構造物の中に居ながら、まるで釣り船に乗つてゐるような辺りの揺れに思わず立ち上がつた。店にはわずかな客人がいたが、同じように立ち上がり、狼狽氣味である。

ぎしぎしと音がし始めて建物が揺れ始めた。あわてた客の一人がドアに駆け寄ると、皆が後を追つて外へ飛び出した。周りのビルが大きく揺れている。ゴーと云う地響きと思われる凶重いく鈍い音が、地面を割つて地下から鳴り出してきた。

一目散に外に飛び出した私は、街路樹の木につかまつて体を支えながら辺りの騒然とした様子に固唾をのんで啞然、呆然とする有様であった。巨大な街が、銀座のビル街が轟音と共に左右に動いている。地面が割れて、大きく横ずれして、ビルが左右に揺れている光景に震撼として立ちすくんだ。真向いの実業の日本の、重層な本社ビルが動いている。巨木を思われた、戦車のようないビルだが、これがいつも軽々しく左右に揺れている。途中から折れてビル全体が今にも崩れ落ちると思うくらいである。何やら地鳴りに似て、巨大な轟音の塊が、背後

から押し寄せてくるみたいだ。外に出てもめまいがする。視界に収まる物体が、今度は回転が止まずに恐怖に襲われて生き地獄にさらされるみたいである。一体どうなつてんだ。地球最後の日になるのか。この揺れは一体いつまで続くのか、さらに激しい揺れが襲ってくるのか、だれも気が付かない。もっと激しくなつたら、東京駅前のセントチャーリー・ビルも崩れ高層ビルが雪崩を打つて倒壊してくるに違いない。街路で右往左往する人たちが、都会にうごめく人たちは、なぎ倒しにあって、みんな圧死である。首都高速道路の下に居ても危険だ。橋脚が折れて道路が頭上から落下してきいたら下敷きである。行き場のない群衆が地下に動いたが、地下街は安全を求めた群れの人で埋まっている。天井が落ちたら、全員生き埋め、埋没である。秩序を失つた天変地異の混乱と恐怖と狂氣は人語を絶するもの

だ。襲つてくる余震が人々を震え上がらせている。携帯電話が通じない。交通手段は機能不全だ。騒然とした混乱の都会に、立ち往生する救急車のサイレンが鳴りっぱなしである。逃げ惑う人たちで、方角を失つた群衆が固まつたまま立ち往生している。これで人々の息の根を止められたら、町は暗黒の深淵である。人々が息をしている間は、町はかすかに動いていることになる。人ごみを縫つてオフィスの前にたどり着いた私は、勇気を出してビルの中に入った。おびただしい水漏れとがれきである。停電だし水道の破裂で館内は水浸しであり、地下には入れない。階段をまたぐようにして登つて7階まで決死の覚悟で登つて行つた。恐怖の思いだつた。時々ビルが揺れている。途中からビルが折れそうな気配の地震がまた襲つてくる。部屋に入ると書棚が倒れ足の踏み場もない。柱に、壁に、ひびが入り

私の机と椅子がかろうじて柱に止まつて固定されていた。倒れていたパソコンを起こし起動させると電気が通じた。ラックキーだつた。インターネットを開くことはできなかつたが、パソコンを打つことはできた。現実の恐怖の模様と心境を寸時に打ち込んだ。水が漏れて天井から落ちてくる。倒れた什器の間に大事な書類があるが手の付けようがなく片付けは当分できそうにもない。オフィスの中と部屋の状況を知つて、諦めと安堵の交錯する中、混乱した階段の足場を探しながら、壁に手をかけ慎重に下りて行つた。災害に逢つた時の訓練を思い出した。あの時はB29による夜間空襲であつた。ちょうど70年前、父は3月10日、東京大空襲にあつて、火炎の中を隅田川にかかる言問橋を燐るしかばねを超えて隅田公園にたどり着き、言問神社の境内にある公園の防空壕に入り死なずに済んだ。夜間、東京

の下町の上空を飛来したB29爆撃機は320機である。おびただしい焼夷弾攻撃を受けて、下町は火の海と化した、死者は10万人を超した。この後B29による焼夷弾爆撃は、その後さらに大阪、名古屋に広がつて、最終的には広島の原爆投下につながつていった。私は、終戦まじかの8月3日、疎開先の水戸で夜間のB29による焼夷弾大空襲に遭遇したのである。両親と兄弟四人がはぐれないように、固く手を結びあい握り合つて、火の海と化した火炎の中を逃げて行つた時のである。目前に破裂する焼夷弾を避けながら、見上げると火の粉のよう焼夷弾が空から落ちてくる。直撃を受けないのが不思議なくらいだ。神のご加護である。千波湖のほとりにたどり着いたが、幸い洞窟の中に逃げ込むことが出来た。今もある時のことを思えば、地震の揺れなど何でもない。ビルが崩れて下敷きに

なつたにしても自分は助かるはずだ。すべては神のご加護だからである。背中にイエスの像をしょつてゐるようと思えた。祈りの時と同じように家内もついており、イエスもいつも一緒だと思つていた。大空襲のときは背中に仏様を背負つてゐるようだつた。父はこうした時はいつも位牌と過去帳を懷に抱いていた。危機と災難にも遭遇した時は、念佛を唱え、祈りながら過ごすようしている。

その後の余震は間断なく襲つてきた。先刻の大揺れをはるかに上回る地震が来るかもしれないという恐怖の念に襲われていた。街に放り出された群衆は、交通機関の不能で行き場もなく、あたりを徘徊するのみである。地震の震源地をはじめとして、その後の状況は判らず、混乱の中に立ちすくんでいた。携帯電話も通じなかつた。目の前の富士屋ホテルは、避難して押し寄せた群

衆で既に満杯である。ホテル側は、緊急の事態に館内を三階まで解放し、避難民を受け入れていた。阪神淡路大震災の時は、火の手が上がって方々で火災が発生したように記憶しているが、幸いそうした事態は周辺に起こらずに済んだ。家族との連絡も遮断されて、大災害の不安と恐ろしさが身に染みていた。娘の明子からは無論のこと連絡がつかなかつた。きっとテレビの報道で必死の活動をしていることだと思つたが、夕方近くになつて息子からの連絡が携帯でつながつた。交通機関は全線不通だし、都会を脱出しようとして歩いていく群衆で、

沿線道路はどこも大渋滞の上、大混雑しているという。だから動かずに今の場所にじつとして建物の中に入るのが一番安全だと伝えてきた。弊社のビルは、使用不能に陥つており、術なく富士屋ホテルに入れさせてもらつた。館内も大混雑である。収容で

きるだけ避難民を収容した富士屋ホテルだが、職員の応対も大変であろう。大きな余震が来るたびにどよめく有様で、気が休まらない。6時を回つて外が暗くなつてきた。今夜はこのまま富士屋ホテルに避難させてもらうしかないとthought。幸い館内に入ることが出来たが、多くのビルが、この夜の為に解放された。私は館内の二階の、いつも講演会場として使う桟の間に入つた。ここにはしばらくしてテレビの大きなスクリーンが用意されて、悲惨極まる被災地の、地震と大津波の状況が伝えられるようになつた。

そこでわかつたことは、恐ろしいことに地震だけでなく、東北沿岸一帯に大津波が押し寄せて甚大な被害をもたらしている状況を知るに至つた。その状況をとらえたフィルムが刻一刻と映し出されて、港の街一帯を飲み込んでいく姿が映し出されて身の

毛がよだつ恐怖感に襲われたのである。高さ15メートルを超す大津波の恐怖である。海面が大きく盛り上がって、巨大な海の壁が沿岸一帯の陸地を目指して押し寄せてくる。海浜の人家を飲み込み、さらに陸地の奥深く容赦なしに襲ってくる。大小の漁船が、自動車が、家が、木の葉のように軽々と流されて津波にのみこまれていくではないか。そうした中で、逃げ惑いながら多くの人々が無残にも波に飲み込まれていく状況も映っているではないか。目を疑いたくなるような戦慄の光景である。平和な海辺の町が一瞬にして消えていくさまは、既に地獄絵の様相である。圧倒的なエネルギーを以つた巨大な津波の破壊力は、言語を絶してすさまじくテレビに映つた。それを現実に凝視しながら、頻発する余震におびえながら、それでも富士屋ホテルの献身的配慮に感謝して、この夜は用意された椅子

に腰かけて仮眠をとりつつ、翌日まで避難民に解放された宴会場の桜の間にとめさせてもらったのである。未曾有の大災害で、東北地方の被害甚大な状況が、一刻一刻に報道されてきた一夜であつた。

三月十一日

公社 昭和経済会の総会と理事会

今日12時から昭和経済会の総会と理事会が開かれた。富士屋ホテルが昨年の4月以来閉館となつてしまつた。残念である。長年、常設会場に使用していたが、会場を選定するに困っていたところ、東京駅近くに理想的な会場が見つかってよかつた。今回は事務局の山本君が見つけてくれた

ので助かつた。北大路と云う洒落た店で会食を兼ねながら行なうことが出来た。

第1号議案 平成26年度事業報告・決算の承認

第2号議案 平成27年度事業計画・予算の追認

第3号議案 役員選任の件を事務局からの説明があつて監査報告を得、のちこれを審議して異議なく決議して所定の手続きを経、つがなく1時40分に終了した。

そののち親睦懇談と会食に入つたが、乾杯を井浦康之理事にお願いし、楽しみの会食と歓談の時間に移つた。重鎮の井浦理事はあと一週間で満87歳を迎えるということで、心身共に意氣満々に溢れんばかりの様子である。人生百歳まで計画が詰まつてゐる由で、小生などは当然のこととは思いながらも皆びっくり仰天である。井浦理事

は、人生は健康で満足して、にこやかに過ごしていくことが最良の道と常々申しているので、小生などはすぐに感化されやすくて、年齢を全く感じさせないはつらつとした雰囲気であつて、頭は光っていても、声の張り、肌の艶やかさからして60歳ぐらいにしか見えないのである。同理事の笑顔は無理して作られたものではなく、自然とこみあげてきているものなので魅力なのである。服装はいつも威儀を正して崩れたところがなく、清潔感にあふれている。お洒落である。笑顔は、その上に積み上げられたものである。もちろんいつも笑つてゐるわけではないが、人と会つている時は自然と笑いがこみあげてきて人を幸福にさせる業と云うか芸と云うか、それも作為的に強いるものではなく、人間性が心の底から自然体でにじみ出てきているので、人として

ての品性を高めて、栄養は濃密である。笑顔、微笑、時に大笑いで会場を沸かせるのである。同じように皆の心も同理事に和合して、喜びを味わうことが出来て滋養たっぷりに吸収して心身の英気を養つてこられるのである。一期一会の心情は昔からの信条であり人生のモットーとして、人生に臨む姿はいつも人生賛歌に徹していく美しい感謝である。

当会は公益社団法人として、この経済社会活動を通じ広く社会にその信念を広め伝えていく使命を担つてゐる。元、旧・大蔵省、現・財務省大臣官房所管の公益社団法人としての名譽ある経歴を以て、80年のゆるぎない歴史を誇る企業経営者団体である。自由で公正な競争社会をめざし、市場経済を目指すことによつて、民間企業の発展を促し、格差是正に努めていくことが肝要と心得ている。

企業の発展は正しい企業経営を通じて社員の所得上昇につながり、雇用市場を正常化して家計を、そして資本の充実を図り、以て家計と企業の良好な相互の発展的循環を図り、社会を潤すものと解釈している。これこそ公正で平和な社会の発展の原動力である。古代ギリシャの哲学者セネカが、貧乏は人間を不幸にすると説いてゐる通りである。無駄な贅沢は経済的価値観からすれば悪徳に通じるが、ほどほどの贅沢は人間の品性を高めるものである。一方で経済学者シュンペター謂うところの企業家精神を發揮し、良好な環境維持に努め、前進と改革への意欲を示すバロメーターでもある。物財の循環型消費と生産の経済を促進していくことが重要である。生産と消費のバランスを得た道こそ経済社会の鉄則である。公益社団法人としての使命を認識し、歴史と伝統に軸足を置いて、尚当会の使命と

活動を清新なものとして持続させ、将来の展望を確たるものとしてとらえ、力強く運営に心してゆく所存である。

三月二十日

宣教師 バートン牧師を送る歌

バーナード・バートン牧師が玉川神の教会の牧師に赴任してきたのは2009年の春のことである。歳月の過ぎるのは速いもので、あれから6年が過ぎてしまった。玉川聖学園の校長を務め、また現在も理事長を務めているが、この度九州の二日市にある教会に赴任していくことになった。

三年前に愛妻のチエルさんをがんで亡くして寂寥の念を消し難いに違いないが、そうした素振りは寸時も見せず、毎週日曜日

の礼拝をはじめ、宣教活動に情熱を燃やし続けてきた。その間、愛妻の病の治療と看病に、日本とアメリカの間を幾度となく往復した。東京では最初近くのS医大に入院し、腎臓がんは、腹くう鏡の手術を得たが6か月後に再発してしまった。今、群馬大学医学部の附属病院で同様の手術で、術後の死亡者が多く出ていることで社会問題になっているところであるが、S医大でも同様の症例と事例が懸念されるところである。未熟な医師が新しい処方に挑むこともあって、最初からミスとリスクを以て行う風潮は消し難い。その後、夫妻は手を取り合つてアメリカにも幾度となく渡つたりして治療に励んだ。バートン牧師は、愛妻のため最先端の手術と治療を受けたりして献身的な看病に徹してきたが、約一年後に希望を絶たれてしまった。残念である。

チエルさんは副牧師として玉川神の教会の職務に就いた。伝道活動も道半ばで天に召されたと思われるが、すべては神のご意思で、チエルさんは、さわやかに笑みをたたえてこれを受け入れ、喜びつつ神のみもとに召されていかれた。我々から見ると全くのおしどり夫婦と映つて、苦楽と浮沈の人生を共に歩んできた夫妻の来し方をほほえましく見守つてきているわけだが、花の命は短くて、の林文子の言葉ではないが、凡人はすぐにそのように解釈してしまうのだが、正直のところ無念の一念もこみあげてくるのである。バートン牧師はそうした状況に堪えながら、また一人宣教の旅について、別の新たな開拓の地を選んで行くことになって、それは神様の意志に従つてゆくことと、使命について極めて爽快かつ明快な決断なのである。

バートン師らは夫婦ともども、日本にきて三十年になろうとしている。初めは九州の二日市にある教会に赴任して、そこで約二十年の伝道に時が過ぎた。言葉と慣習の違いを克服し、十分に宣教の務めを果たし、そして東京に赴任してきた次第であつた。日本を深く理解し、愛し続けてきて、日本人以上に日本を理解し、愛し、第二の故郷以上ではないだろうか。富士登山をする夫妻の写真は、なんと美しく晴れやかなことであろう。幾度となく思い出の記録をとどめてきていることが、また魅力である。そして活動は、東北震災の被災地の救済にたびたび出向き、車を運転して、我々が献品させてもらった沢山の物資を、現地に運び続けてきた。感謝の念でいっぱいである。これから赴く慣れない土地でのひとり暮らしは、難儀もあることであろう。持ち前の意志堅固、身体強健をもつて、情熱的に人

生を歩んで、宣教の道を貫いていくことを
私は希望し祈つてゐるのである。

礼拝の終わった後、バートン牧師に感謝
する会と銘打つて午後一時から愛餐会が開
かれた。老若男女が、バートン牧師に心か
ら感謝してささやかな会食会を以て臨んだ
が、バートン牧師は終始笑顔を絶やさず、
皆と歓談して別れを惜しんだ。妻が玉川神
の教会を代表してバートン牧師に感謝の意
を述べるとともに、バートン牧師との思い
でに触れて懐かしく語つた。特に親しくし
て付き合つたチエル夫人とは格別な思いを
持つており、がんの病に侵されながら気丈
に宣教の道を歩む姿を熱く語つたのである。
あとに残されたバートン牧師だが、神のみ
心に従つて懸命に生きていくことであるが、
熱い思い出を残して一人旅立つていく後ろ
姿を気遣い、ひたすら神の救いと恵み、そ

して励ましと癒しを求めているものであつ
た。我ながら感銘して聞いていたのである。

春風のそよぐ夕べにふるさとの花のたより
に出でし旅かも
宣教に発てるバートン先生にパウロの姿重
ね合わせん

宣教にひとり旅立つ先生に道ゆくパウロの
姿偲べり

愛妻のチエル姉を胸にひとり発つ桜咲く日
のバートン牧師よ

世の人の喜怒哀楽を打ち鎮め慎ましく生く
時のうれしさ

九州の栄えの土地に宣教のチエル師と共に
よみがえる日よ
素晴らしき祈りの道をつきすすむ三位一体
の法界に立つ

梅の香の匂ふあしたの説教に心すがしく主に仕へけり

惜別の思いもふかしバートンの情熱あふる

今日の説教

春を告ぐ陽ざしに梅のほころびて牧師のイエスを語るよき日や

梅の香のにほふあしたに相まみえ桜散るころ君は去りしも

われはなほ浅き信仰のしもべにて悔ひ改めの道に励めり

信仰の道なほ険し行く先にかがやく神のみ国ありしも

朝にけにつつがなき身を感謝して道に励みて実り多きも

おびただし聖句の中にキリストの愛と光を示す我が妻

時あらば常に聖書をひもときてイエスと語る妻の目に入る

信仰の道をひたすら歩みゆく妻を眺めつらなるべし

汝が友に愛と光をともしゆく笑みを絶やさぬ妻が居りしも

朝やけの空しみじみと明け初めて聖書にむかふ妻を見つかり

何かにと友らを交えキリストの妙なる教へ語るわが妹こ

艱難と辛苦に勝ちて高らかに行くバートン師の宣教の道

愛妻を失ふあとを何かにと牧師を氣つかふ妻のこころね

あるときは夕餉の煮物を持ちて行く不自由な身のバートン牧師へ

縁ありて君が大和に居り間に和歌を学びてあれと申せり

寂しさにひとり山路をたづねきて咲く山百合にチエル師偲ベリ

渾身の力を示すバートン氏。パウロの東北救済に似て

東北の地にいくそたび駆け走り貧者救済に尽くす牧師よ

情熱のバートン牧師にキリストのみ靈の移り尚もえさかりけり

理不尽のこの世に多くまかりけり正義と情義を尽くす故なり

十字架のイエスをあほぎ活躍す艱難辛苦に打ち勝ちゆかん

日本の今の繁栄に感謝してなほ民生の安寧を期さんや

うぐひすの高鳴きをきき教会に行く道すがら摘みし菜の花

さはやかな春風に触れ我が妹と恵み豊けき辺りそぞろふ

バートンのイエスに尽くす生涯の常にチエル姉が寄り添ひぬ日々

キリストの教へに添ひてゆく身にも南無阿弥陀仏の声の聞こへ来

てははとはらから居まし昔いま極楽淨土の天にまします

みほとけの愛と癒しに救はれて極楽淨土に居ますてはは

バートンの聖餐式に默想す一念静思の面影ふかし

東北大震災に幾そたび被災の人をはげましに行けり

主を讃ふみことばにつき学ぶ日のバートン牧師の玉川教会

いつの日か又相まみえよみがへるバートン牧師とチエル副牧師

被災せる東北の地を救済に尽すバートン氏の姿尊とき

おおなると巨大津波に碎かれし東北の地をゆくバートン師よ

大船渡浜辺に立てる一本の松に命の力尽くせり

朝まだきワゴンの車を運転し救援物資を運ぶ牧師よ

激浪の激しく襲ふ大船渡廃墟の浜に残る松かな

富士を背にほほゑみて立つチエルさんのマリアにたる姿ゆかしき

日本人より日本語と心をば機微に賢こくとらふバートン

バートンの今朝の説教に奮ひ立ち勝利に向けて我は進めり

梅の香の匂ひてくれば亡きチエル師その人柄のなつかしきかな

清楚なる匂ひおのずと漂ひてチエル師の居りし教会のうち

水仙の咲きそろふ日の陽だまりに早や菜の花も出づる気配に

菜の花のそろりそろそろ咲くころと窺ひ知りぬわが庭かな

菜の花に思いを託し忘れ得ぬ人浮かび来て思ひ過ごす日

不二を背に登山姿のチエルさんに神ざぶ道の厳しさを見ぬ

チエルさんと親しく語る我が妹と共にイエスの香りにほひ来

玉川の神の教会の十字架にまたたき光るオリオンの星

春の夜にきらめき光る法界の真砂の星に魅せられしかな

春風のそよぐあしたにまほろばの花のたよりに出でし旅かな

指を折り年を数へてわらべ歌うたふわらわの遠き夢の日

梅の香の匂ふあしたに身をあかし桜のころに去りて行く君

麗しき三位一体の法界に立ちとこしえの果
てを眺めん

満天の星をあほぎて限りなき宇宙の果てに
思いはせなむ

星々の身を寄せあひて輝けばほのかに白く
霞とも見ゆ

満天の輝く星を仰ぎ見てなぜかゆへなく人
の恋しき

愛妻を亡くしてひとりさびしさの道ゆく先
に山百合の花

妻につき礼拝前の会堂に居ればおのずと心
鎮めり

十字架のイエスを仰ぎあがなひの痛々しき
に胸の裂けるを

聖書より父よ彼らをゆるせしとみ言葉をき
き仰ぐ十字架

落ち着きて主の御言葉をとりつぎし藤原牧
師のそれなりによし

陽春のひかり大地にみちあふれ喜び合ひて
仰ぐ十字架

思へらく力と権威にみたされて神の言葉に
満たされしかな

麗しき頃あひとなるあめつちの燃えさかり
出づよろずもの皆

真なるやまと字をかきみ言葉の意義を記せ
るバートン牧師は

キリストの血と肉を皆さづかりて喜び合ひ
し聖さんの儀に

花の日に塚本兄弟の受洗せりイエスの香り
匂ふめでたき

大いなる恵みをもちて花の日の牧師の最後
のメッセージぞ良き

富士を背にほほゑみて立つチエルさんの一
な美しや貴き面影
不二やまを登るバートン夫妻より高みをめ
ざす便りとどきぬ

チエルさんの病ひに倒れ逝ゆきしあと主に
支へられ生くるバートン

この国にチエル師と共に宣教の道行く聖し
バートン先生

艱難は忍耐を経て練達を尚成功へと聖句の
述べり

汝が妹と高みをめざす富士やまの主に仕ふ
身のつつましきかな

最愛の妹子と別れてひとり行く旅路の空の
高くあらまし

面立ちの猛りますらおと覚へしも良きここ
ろねに惹かれるなり

花の日の最後となりしメッセージバートン
牧師の主の道をゆく

この国に縁と絆にありしかば文化の和歌を
君に勧むと

この国に祈りの道を広め行く牧師に神のご
加護あれかし

三月二十二日

3月29日にバーナード・バートン牧師
の最後となる説教があつた。教会に行つて、
外人の牧師に説教を聞くのは今までに2度
あつた。一度目は大学時代である。ドイツ
語の教授を得るために、私は自發的に当時
難解とされていたゴットル経済学を酒枝義
旗名誉教授に教わつた。そのついでと云う
わけではなかつたが、経済学原論をドイツ
語で学ぶ機会があつた。放課後になると夕
方から大学院の酒枝研究室に行き原書を講
読しながら経済学を学ぶ時間だつたので、
そこでドイツ語を勉学した。酒枝教授は敬
虔なクリスチヤンである。我が国でも内村
鑑三と並ぶキリスト教研究の大家であり、
傍らゴットル経済学研究の第一人者であつ
た。当時は経済学と云えばマルクス経済學
と、それに対峙してケインズ経済学が人氣
の学問流派であつて、今でも続いている世
界である。中国に代表される社会主義的計

画經濟の社会、片やアメリカに代表される自由主義的市場經濟の社会である。政治的には前者は一党支配の中央集權的国家体制であり、一方複数政党による自由民主主義的国家体制である。そうした中でゴットル経済学は経済社会の機能を構成体論的に把握して、如何に經濟を最大公約数にして公正な所得の配分にならしめて、国家存立の基盤を作り上げるべきかを論じた學問である。

酒枝教授の流麗とした弁術は、その右に出るのはなかつたくらいで、西ドイツのアデナウワー首相が来たときは、早稲田の大隈講堂で講演を行つたが、その通訳をしてあつ晴れな講演となさしめて、その翻訳と講演はアデナウワー首相よりも格調高く聴衆の胸を打つたのである。私はその後酒枝教授とは公私にわたり親しくご指導を受けて、社会に出てからも親交を深めに行つ

たが、そうした思い出の話は含蓄に富んで、いずれ機会があつたら小生のコラムに綴つていきたいと思っているくらいである。学問研究においてはもちろんのこと、各方面に多彩な才能を發揮して学園で誇り高い名声を以て迎えられていた。中野区の鷺ノ宮にある自宅を開放して集会場に使い多くの信者が教授を慕つて見えたのである。現子夫人にもお世話をなつた。そうしたことを行つたが、そうした思い出の話は含蓄に富んで、いずれ機会があつたら小生のコラムに綴つていきたいと思っているくらいである。学問研究においてはもちろんのこと、各方面に多彩な才能を發揮して学園で誇り高い名声を以て迎えられていた。中野区の鷺ノ宮にある自宅を開放して集会場に使い多くの信者が教授を慕つて見えたのである。現子夫人にもお世話をなつた。そうしたことを行つたが、そうした思い出の話は含蓄に富んで、いずれ機会があつたら小生のコラムに綴つていきたいと思っているくらいである。学

教会の牧師として赴任したエーラー先生は、やはり西ドイツから早大の教授として招聘されてきた。大学ではドイツ語の会話を教わっていた。同時に宣教師として文京区本郷の富坂教会に赴任してきたこともあって、その教会に何度も通つて、エーラー先生の説教をたびたび聞いたことがある。しかし私を見ると、必ずドイツ語で話しかけてくるのである。日本語を話すこと

がよほど難しいことだつたに違いない。それは私にとつてドイツ語会話の訓練の絶好の機会であつた。それに比べると勿論、滞在期間が大いに違つてくるから致し方ないが、バートン牧師の日本語は抜群に優れたものである。日本語の抑揚を上手に使って聞く人の心を捕まえて、語彙は豊富である。ただ一か所だけ注意したいと思つて今日まで來たが、折角の弁術が、たつた一か所間違えて使つているがために、全体の意味が損なわれてしまつてゐるのが残念である。接続詞の言葉の使い分けである。注意しようと思つていながら機会を外してしまった。30年以上もその調子でやつてきたから、今更注意しても感じを悪くするが落ちだと思つたこともある。だから敢えて言わないことにした。それがバートン氏の特徴とたらえれば、それはそれで生きて来るかもしない。

最後の説教となつたが、その記念すべき日に洗礼を受けることになつた人が居た。一年前ぐらいから教会に見えていた人だが、しつかりして寡黙な人格者と思しき人であつた。60歳代の人かと思つてたびたび挨拶を交わしていたが、深くは知らないかった。家内が親しく言葉をかけていたので、教会の雰囲気に次第に慣れてきたようだ、たまに礼拝の終わつた後のお茶飲み会に加わつたりして過ごしていくことがあつた。私はどちらかと云うと礼拝に出席するよりは、こちらの方の会に出て、みんなの話を聞いたり、こちらからものを申したりして歓談する方が楽しみなのである。時折、皆と自由が丘に出て昼食をとつて帰つたりするが、そうした時ほどさらに有意義に過ごしてきたと思って、その分喜びが増してくるものである。精神衛生上にもいいし、これを以てイエスの癒しであり、恵み

だと私自身は勝手な話として解釈し、左様に称しているのである。

洗礼を受けた紳士の塙本さんは、信仰告白の際に述べたことで詳しく述べたが、今年77才、大学を出た後にイギリスに留学して、帰国後は脳神経外科を専門とする医者として活躍し、その後は大学病院の重鎮の地位にあって努めてきたが、退職後早や喜寿を迎えることとなつて医者として真剣に生と死の問題について考えるようになつてきたとのことである。そして行き着いて教会の門をたたくことになつたらしい。

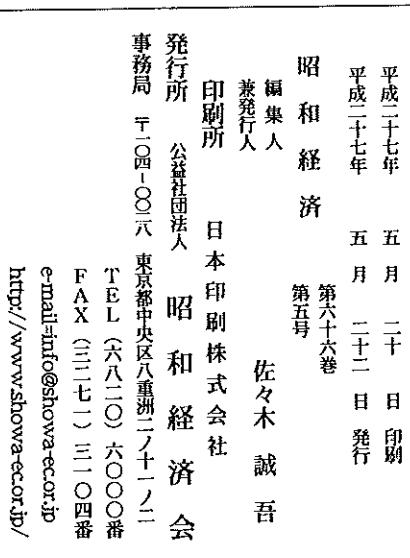
人間として自分について真摯に考えた挙句に、洗礼を受けたという心境を明かしたのである。喜寿と云われたが、実際には60歳、ごろかと思われる感じの若々しさである。お茶を飲んだ後、都合がついて気の合つた人たち8人で自由が丘へ行く途中のレストラン・モツコによつて昼食をとつていくこ

とにした。モツコでの昼食会は、この日に洗礼を受けた塙本兄のお祝いを込めたものでもあつた。私は「花の日に塙本兄の洗礼を受けてめでたく祝ひけるかな」の一首を詠んで差し上げた。花の日は、文字通り桜の花の季節である。折から満開の花を見上げながらふと浮かんだ一首である。

昼食会には、久しぶりに内科医の大武先生も参加された。先生は89才である。つい最近まで九品仏駅近くで開業医をなさつていた。趣味は写真撮影で、プロ級である。医者の仲間同士でグループを作つて撮影のため外国に出かけることもあり、たびたび個展を開いたりしているベテラン写真家である。藤沢から見えていた。神田から見える岩金夫人、学芸大から見える松本夫妻が揃つて昼食の席となつた。岩金さんはお茶の師匠である。お弟子さんが沢山いて忙しいが、玉川聖学院でお茶の教室の教授もし

ている。旦那は神田の生まれで生粋の江戸っ子ゆえに、今宵は隅田川に屋形船を浮かべて桜見物だそうである。粋で、なんとも風流な、贅沢な遊びである。粋な文化人である。松本さんは元NHKの職員であった。一部ながら、こうした種々多彩な人の集まりで、塙本さんも安心したのではないだろうか。教会と云うところは神様との出会いと、神様と対話の場であるが、その会堂を一步出ると、穏やかな人間同士の付き合いがあつて、損得勘定抜きの、ほのぼのとした心境に癒されるものだということである。

三月二七日



表紙絵の言葉

佐々木 誠吾

モンブランとシャモニーの街

ネペールを襲つた今回の巨大地震の惨状は奥地への救援が、現地の破壊的混乱で円滑に推められない。首都カトマンズを経由した現地からの報道によるしかないが、被害は甚大で、世界中が救援に向かっている。

死者七千人強、負傷者は軽く万を超すともと言われ、その数は更に増える状況である。普段はヒマラヤを中心としてアルプス連峰の秀峰は、多くの登山者を魅了し、多くの登山愛好者がこの地を訪れる。又、観光客のあこがれの的である。こうした山々が出来た、壮大無比の地球の営みは知る由もないが、今、それを思い起させるような地殻変動がわずかに起きて、この惨状である。

表紙の絵は、かつて寺島祥五郎画伯が画いて、私に贈つてくれたものだが、今度は私が昭和経済会に寄贈したもののが一つである。ス

ケツチ帳に綴られた一枚の絵だが、秀峰モンブランと山並みのふもとの美しい渓谷にある街シャモニーの風景である。世界でも有数のスキー場のリゾートとして、観光客の注目を浴びている。冬は銀色に輝く世界だが、夏は山頂の雪を眺めて、緑の波に輝やく世界に変容し、四季折々に素晴らしい景観である。四季を通じて多くの登山者が世界から訪れるが、シャモニーはスポーツの聖地でもある。作者はエギュ・デュ・ミディの展望台に立つて、目の前にひろがる絶景に思わず筆をとつたのだろう。この展望台は標高三八四二メートルの高さの山にある。この展望台に立つとモンブランやシャモニー渓谷が一望に眺められる。特に鋭く切り立つたモンブランの山の姿は感動的だし、ふもとの深い渓谷に息づく街のたたずまいは、絵のように映つたことだろう。初夏のモンブランと、シャモニーの街の風景がよみがえってきた。

月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十七年五月）

大内義一

早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

荻原伯永

（株）日本経済社 日経専務

牛場信彦

外務省顧問

広瀬嘉夫

NHK解説委員

安井謙

参議院議長

加藤寛

慶應義塾大学教授

豊原兼一

NHK解説委員

斎藤栄三郎

参議院議員

岡村和夫

NHK解説委員

石井義昌

（株）桂川精螺製作所 社長

糸川英夫

組織工学研究所所長

宮本四郎

通産省産業政策局長

豊田雅孝

（社）日本中小企業団体連盟

安井謙

前参議院議長 自民党顧問

大来佐武郎

対外経済関係 政府代表

藤原弘達

政治評論家

堺谷太一

作家

原田正二

大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

安井謙

第一勵業銀行産業調査部長
劇団手織座

宝生あやこ

通産省産業政策局長
産業資産課長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長
通産省電子政策課長

岡松壯三

村山祐太郎
鈴木金属工業副会长

山本幸助

当会理事
参議院議員

山田晃

早稲田大学名誉教授
画家

寺島祥五郎

当会顧問 自民党最高顧問
参議院議員

安井謙

当会顧問 自民党最高顧問
参議院議員

田山晃

元読売新聞政治部次長
元税務大学教官 税理士

鈴木三子郎

竹下登 大蔵大臣

竹下登

衆議院議員

福田赳夫

衆議院議員

齊藤榮三郎	商学博士 法学博士 文学博士	水谷研治	東海総合研究所 理事長
河野洋平	参議院議員	バツラフ・ハベル	チエコ大統領
前川春雄	前 日本銀行総裁	平野憲一郎	日本経済新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商産業省 通商政策局長	吉田和男	京都大学教授
堀江忠男	大月短期大学学長	石川忠雄	慶應義塾大学名誉教授 学長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘	元 首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米国企業公共政策研究所 所長	北岡伸一	立教大学教授
目良浩一	東京国際大学教授	島田晴雄	慶應義塾大学教授
行天豊雄	東京銀行会長	吉田和男	京都大学教授
吉川洋	東京大学教授	塩野谷祐一	一橋大学名誉教授
竹中平蔵	慶應義塾大学教授	宮沢喜一	元 首相
加藤寛	慶應義塾大学教授	山田伸二	NHK解説委員
原田和明	三和総合研究所 理事長	石井明	東京大学教授
鴨武彦	東京大学教授	加藤寛	千葉商科大学長
大山晃人	東京国際大学教授	伊藤裕章	政府税制調査会会长
元 N H K 解説委員	朝日新聞ワシントン特派員	小宮隆太郎	東京大学名誉教授
井浦康之	企業コンサルタント	青山学院大学教授	

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ岩本	ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジエームス・D・ウォルフエルソン	世界銀行総裁
奥野正寛	東京大学教授	山口光恒	慶應義塾大学教授
橋本大二郎	高知県知事	シモン・ペレス	イスラエル外相
福川伸次	電通総研研究所所長	岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	ポール・サミュエルソン	経済学者
清水啓典	一橋大学教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
高橋伸彰	立命館大学教授	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
中谷巖	一橋大学教授	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
金大中	韓国大統領	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
佐和隆光	京都大学教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
茅陽一	慶應義塾大学院教授	山本清治	慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	朱建榮	経済評論家
榎佳之	東京大学医科学研究所 大学院教授	アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
高橋伸彰	立命館大学教授	林光夫	ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
月尾嘉男	東京大学教授	ハワード・H・ベーカー	駐日米大使
北岡伸一	東京大学教授	山本清治	経済評論家
石原慎太郎	東京都知事		

ステイブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名譽教授
山口義二 立教大学経済学部教授	東京大学客員教授	曾根泰教
公文俊平 多摩大学情報社会学研究所所長	慶應義塾大学教授	平野雅章
伊藤元重 東京大学教授	早稲田大学教授	若田部昌澄
アルビン&ハイディ・トフラー	東京大学教授	大西隆
中曾根康弘 元首相	山内昌之	浜田純一
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	中西寛	中西寛
竹森俊平 慶應義塾大学教授	高木新二郎	東京大学教授
岡部直明 日本経済新聞 論説主幹	前産業再生機構委員長	東京大学総長
加藤寛 千葉商科大学学長	野村證券顧問	京都大学教授
山口光恒 帝京大学教授	入江昭	京都大学准大学教授
斎藤惇 産業再生機構 前社長	林良造	ハーバード大学名誉教授
渡辺智之 一橋大学教授	土屋堅二	東京大学教授
山崎正和 中央教育審議会 会長	お茶の水女子大学教授(哲学)	クリスティーナ・アメージャン
福江等 前ナザレン神学大学学長	伊藤元重	一橋大学教授
大田弘子 経済財政担当相	井深記念塾ユーライ	東京大学教授
	今井賢一	スタンフォード大学
	名譽シニアフェロー	

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 獻	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稲田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 満博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	カナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	東京大学教授
山内昌之	東京大学教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珊秀	中央大学教授
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	駐日韓国大使
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	神戸大学教授	
植田和弘	京都大学教授	新宅純二郎	
松本 紘	京都大学總長	岡部直明	
大西 隆	東京大学教授	若宮啓文	日本経済新聞客員コラムニスト
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長	中沢克二	日本経済新聞社 中國総局長

猪木武徳	青山学院大学特任教授
長山浩章	京都大学教授
石川城太	一橋大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授
横山彰	中央大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授
原真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	一橋大学教授
須藤繁	帝京平成大学教授
翁邦雄	京都大学教授
下斗米伸夫	法政大学教授
吉川洋	東京大学教授
澤田康幸	国際協力銀行副総裁・元財務官
渡辺博史	東京大学教授
北岡伸一	国際大学学長
有田哲文	朝日新聞編集委員
柴田直治	朝日新聞国際報道部
竹森俊平	慶應大学教授
磯田道史	静岡文化芸術大学准教授
橘川武郎	一橋大学教授
伊藤元重	東京大学教授
山内昌之	明治大学特任教授
白石隆	政策研究大学院学長
土屋英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
戸田悦造	懸賞論文 優秀賞
青山慶二	早稲田大学教授
瀬口清之	清之キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
今井賢一	スタンフォード大学名誉シニアファロー
田中伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
宮本雄二	宮本アジア研究所代表・外務省顧問
菅原宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
白石野中郁次郎	政策研究大学院学長
矢作弘	龍谷大学教授

有吉 章	一橋大学教授	山内 昌之	東京大学名誉教授
御厨 貴	東京大学先端技術研究センター教授	北岡 伸一	国際大学学長
伊藤 邦雄	一橋大学教授	川島 元重	東京大学教授
大村 敬一	早稲田大学教授	西條 郁夫	日本経済新聞社編集委員
御厨 貴	放送大学教授	滝 順一	日本経済新聞社編集委員
山内 昌之	明治大学特任教授	山脇 岳志	朝日新聞アメリカ総局長
北岡 伸一	国際大学学長	榊原 英資	青山学院大学教授
葛西 敬之	JR東海名誉会長	中鉢 良治	産業技術総合研究所理事長
岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授	北坂 真一	同志社大学教授
山内 昌之	明治大学特任教授	野村 浩二	慶應義塾大学准教授
池上 彰	東京工業大学	吉川 洋	東京大学教授
山崎 和仁	中央大学大学院経済学研究科教授		
橋本 健治			
石川 桂子			
戸堂 康之	大阪市立大学准教授		
三田 哲也	武藏野大学文学部部長		
実 実	早稲田大学教授		
御厨 貴	日本経済新聞社論説委員長		
		堺屋太一 作家	
		栗栖弘臣 統合幕寮長	
		加藤寛 慶應義塾大学教授	
		糸川広洋 組織工学研究所 所長	
		昭和五十三年～平成二十七年五月	
		当会・講演会 講師（敬称略）	

大来佐武郎	吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長
齊藤栄三郎	天谷直弘	(財) 産業研究所顧問
柿沢弘治	元	通産省審議官
浜田幸一	東京都知事	
木元教子	黒田眞	通商産業省 通商政策局長
藤原弘達	上野明	野村総合研究所 主任研究員
山本幸助	前川春雄	前日本銀行總裁
岡松壯三郎	大山晃人	N H K 解説委員
山田勝之	野坂昭如	作家
鈴木幸夫	水野哲	通産省産業政策局長
山室英男	堀江忠男	産業政策局総務課長
佐野忠克	梅沢節男	早稲田大学名譽教授
河野洋平	田川誠一	国税庁長官
寺島祥五郎	森 亘	進歩党代表 衆議院議員
長富祐一郎	東京大学総長	
中沢忠義	藤井康男	N H K 解説委員
中小企業厅長官	水城武彦	
	大山晃人	N H K 解説委員
	齊藤栄三郎	国務大臣 科学技術厅長官

内田 满	早稻田大学教授	主任研究員
岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長	三和総合研究所
水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	和田俊 朝日新聞編集委員
有馬朗人	東京大学総長	テレビ朝日ニュース・ステーション
松本和男	経済評論家	原田和明
大山晃人	NHK解説委員	（財）日本証券経済研究所
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	元 N.H.K.解説委員
松永信雄	元 日本銀行理事	木村時夫 早稲田大学名譽教授
霍見芳浩	外務省顧問 前 駐米大使	井浦康之 井浦コミュニケーションセンター
村松暎	ニューヨーク市立大学大学院教	大山晃人
慶應義塾大学名誉教授	杏林大学教授	元 N.H.K.解説委員
飯田健一	NHK解説委員	当会理事
L·A·チジョーフ	駐日ロシア連邦大使	水谷研治 東海総合研究所 理事長
大山晃人	元N.H.K.解説委員	目良浩一 東京国際大学教授
小浜維人	東京国際大学教授	山下亀次郎 筑波大学 臨床医学系内科教授
青木匡光	NHK解説委員長	岩國哲人 筑波大学付属病院副院長
紺谷典子	メディエーター（人間接着業）	浅井隆 前 出雲市長
		岩田規久男 経済ジャーナリスト
		久保亘 上智大学教授
		大山晃人 前 大蔵大臣
		山田伸二 東京国際大学教授
		NHK解説委員

吉田春樹	和光経済研究所理事長	斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授
副島隆彦	経済評論家	㈱NTTデータ経営研究所所長	社会経済学者 エコノミスト
ポールシェアード	ペアリング投信投資顧問	佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長
(株)日本株運用ヘッジ兼ストラジスト	早坂茂三	元三菱商事㈱本部長	元三菱商事㈱前社長
山田伸二	田中角栄 元秘書	サウディ石油化学㈱前社長	経済評論家 株式評論家
中村敦夫	参議院議員	三原 淳	NHK解説委員
原田和明	三和総合研究所特別顧問	石川 一洋	元モスクワ支局長
西澤宏繁	東京市民銀行頭取	山田 伸二	NHK解説主幹
亀井静香	衆議院議員	中谷 元	元防衛厅長官 衆議院議員
山田伸二	NHK解説委員	林良 造	東京大学教授
武者陵司	ドイチエ証券チーフストラジト	渡辺 喜美	元経済産業省経済産業政策局長
川崎真一郎	第一生命経済研究所主任研究員	山崎 淑行	みんなの党代表 衆議院議員
金子一義	国務大臣	中谷 嶽	NHK科学文化部 記者
山口義行	立教大学教授	ロバート・フェルドマン	経済評論家・エコノミスト
山田伸二	NHK解説主幹	月尾 嘉男	東京大学名譽教授
斎藤精一郎	千葉商科大学教授	伊藤 達也	元金融担当大臣
高木新一郎	㈱産業再生機構 産業再生委員長	高木新一郎	元金融担当大臣

山田 伸二 N H K 解説主幹

山内 進 一橋大学学長

板垣 信幸 N H K 解説主幹

熊野 英生 第一生命経済研究所首席エコノミスト

五十嵐 敬喜 三菱UFJリサーチ

&コンサルティング 執行役員

道宣教にひとり旅立つ先生に
道ゆくパウロの姿偲へり
愛妻のチエル姉を胸にひとり
發つ桜咲く日のバートン牧師よ
惜別の思いもふかしバートンの
情熱あふる今日の説教
梅の香のにほふあしたに相まみえ
桜散るころ君は去りしも
われはなほ淺き信仰のしもべにて
悔ひ改めの道に励めり
おびただし聖句の中にキリストの
愛と光を示す我が妻
汝が友に愛と光をともしゆく
笑みを絶やさぬ妻が居りしも
咲く山百合に山路をたづねきて
寂しさにひとり山路をたづねきて
常にチエル姉が寄り添ひぬ日々
バートンのイエスに尽くす生涯の
富士を背にほほゑみて立つチエルさん
マリアにたる姿ゆかしき
この国に縁と縊にありしかば
文化の和歌を君に勧むと
花の日に塚本兄の洗礼を
受けてめでたく祝ひけるかな

平成二十七年三月二十七日

佐々木城吾
公益社団法人昭和経済会理事長
短歌同人誌淵主宰

講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
莊祐新榮宗

英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳
男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫

N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大
H産產產藏本H應學織本學田本士大臣
K省省省稅京務企K義產工經治議濟濟技銀(内閣總理大臣
生産國官銀墊業解省業解省術護研新評院術評評
解產活業際府都省業解省究聞大序說行研行
說業產政政房行大序說大序說行
委審業策治審長知顧長委教顧所社論議論論社理
員議局局部議長長所顧長長所顧

長官長長官官事裁問家官員授家間官士長問家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小七霍松鈴有大水森堀水藤井大
通財藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜△見永木馬来谷江城井浦山
産務者精佐
担当達一義静宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信漱朗武研忠武康康昊
宣也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊人浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N
商藏務教京應H教京和ビH日レ駐村外海稻浦コミュH
産閑大議都治義治大教緑朝ヨメ總京角Kニケ
業政總大臣議都治義治大國合ニロク大合經合K
省策理・學・學K雲大際研ユ解市使研大濟研
政策研產經民塾大業院評評解藏シ立・學解散
研究再濟銀大研究ス説大學外究學担究學名
究会臣生學行學論大學所スア學務所當所
会メ補機部議行學論大教理大務所當所
メン構教頭教委教事シ員大院顧事
ババ佐担教頭教委教事ヨ教
11官當授員取家授家員臣長授授長ン長使授間長長臣長長授員長1員

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 **昭和経済会**
事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2
TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104
URL <http://www.showa-ec.or.jp/>
e-mail info@showa-ec.or.jp